



讃岐國名勝圖會
齊郡東上
五

JL 4
270
5t



冊 270
卷 5



讚岐國名勝圖會卷之五目錄

香川郡東上

藤末社	無量壽院	勝法寺	極樂寺	惠日庵	靜觀莊	子日弘堂	深妙寺	天満宮	不動庵	郷名
亀井	德法寺	本覚寺	福善寺	地蔵菴	一成院	仲松島	惠比須社	土産	高松城	西後寺
水神社	西福寺	安粮寺	圓重寺	覚善寺	多賀社	紙園社	鬼子母神	西後寺	極子社	愛行院
浄願寺	多聞寺	願船坊	奥正寺	安楽寺	高善寺	花畠跡	大雄菴	生嶋	大雄菴	花畠跡

无礙菴

碧水藏書

御守殿 御師堂 常会公事 徳守社 山門 徳藏
 護念院 祿名院 善昌寺 徳成寺 壽国院 妙如寺 養通院
 奉典寺 地蔵寺 九ツ井 東福寺 行徳院 大本寺 正覚寺
 東光寺 見性寺 公憲寺 禪堂 祖師堂 徳守社 長身庵
 泉立寺 日妙寺 蛭子社 王子社 吉祥寺 鼓樓
 蓮花寺 常福寺 静息寺 真如寺 西方寺 専念寺 愛宕社
 願教寺 松岸寺 静息寺 墓碑部 西方寺 専念寺 愛宕社

讃岐國名勝圖會卷之五

香川郡東

住古ハ香東郡トシテ三木山田の二郡小攝
 南ハ阿波ノ邊ノ北ハ海ノ限ニ西ハ香川郡西ノ
 御名 笠原 東濱 西濱 宮脇 上村 中村 会里 以上
 太田村 松繩村 多肥 和名抄作多肥上 百相 出作村 大野 大野村
 伏石村 三谷村 寺井村 由佐 和名抄作井原 横井村 川東上村 口下村 安原
 浅路村 寺井村 池内村 西庄村 横井村 川東上村 口下村 安原
 川内原村 東谷村 同下村

土産

櫻鯛 鱈 海參 鱈子 魚醬 魚鬚斗 海老 蝦 蛸 蟹
 五色鯛 削蛸 保多縞 陶器 菜蕨 紙漉 上村
 索麩 銀冶 烟州 溪鯉 以上 安原村

高松城

續日本紀日神護景雲三年冬十月甲辰讃岐国香川郡人秦
 勝倉下等五十二人賜姓秦原公
 高松城 龜原庄小あり又玉藻城トシテ故未詳蓋万葉集人六呂の歌
 半丸龜へ七里伊豫川上へ十五里阿波徳島へ十八里土佐高知へ三十八里
 徳前岡山へ九里今毘羅へ八里白鳥へ九里

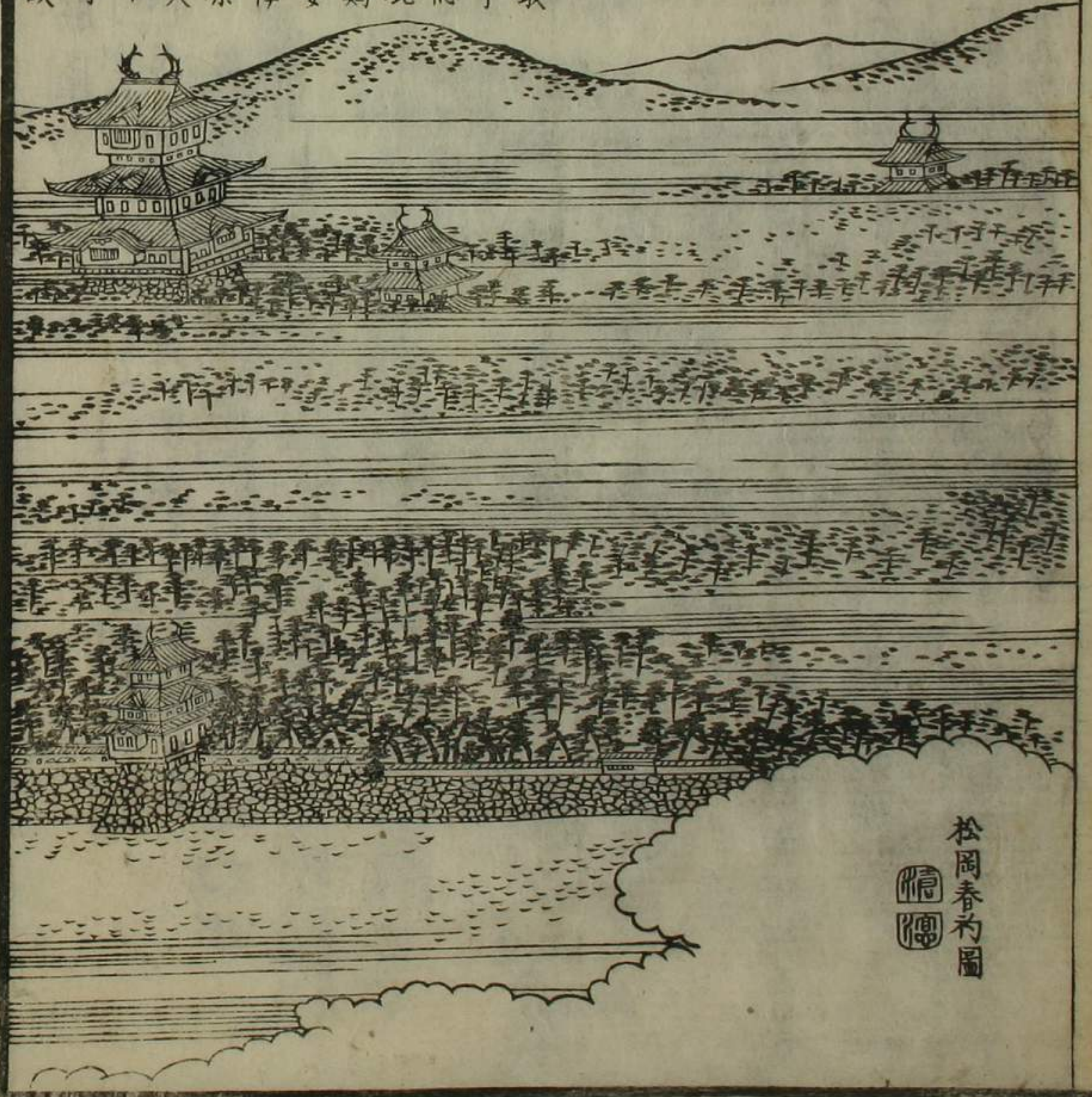
高松城

海上望

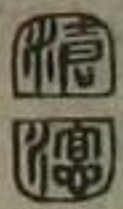
眺望

詠舟中望高松城狀歌

王蒸吉護吉國能鯨魚取
大海原名細寸小豆鳴半
折竹乃背見丹見管燭隱
屋鳴寬大門由朝和仁鹿
兒整而夕和仁揖音為鶴
喚伊榜來舟欲利見波
薦抗高松浦能白波乃伊
閑迎雷荒磯際仁高天原
二天曾獲梨魚鱗能如久
福草之三葉四葉仁海若
神命乃歸位坐流宮室等
見麻豆此也是蜃貝能吹



松岡春内圖



放氣吹仁成流高樓止見
離計朝日仁伊照亘夕日
仁伊賀加欲玳如白玉造
術舍如黃金仕流御殿行
船之柁刺留豆魚名之伊
加仁止間婆浪上矣伊行
佐久微岩間矣伊行回筒
魚釣止浦爾年經志白水
節翁我伊榜歸來心戀丹
吾告久波懸卷裳綾仁畏
寸鷄之鳴東照大神之御
孫命任賜所寄賜天生將
生御子能悉樛木之弥次
次仁玉葛弥遠長仁天地
日月與共仁神柄疑許多
貴寸真秀國迺浦安國迺
百千足此御國乎牛偏頻
君命之飄形能天御蔭天
傳日御蔭止千代經筒隱
比坐有大城止告津

友安三冬士著



かくたりまてて... 全興行院の事り...
かくだりまてて... 全興行院の事り...
かくだりまてて... 全興行院の事り...

高唐の初め竹番... 沙門徳若...
高唐の初め竹番... 沙門徳若...
高唐の初め竹番... 沙門徳若...

恵比須社

住吉大御社
住吉大御社
住吉大御社

末社

住吉大御社
住吉大御社
住吉大御社

南社の生駒家のとき... 青浦の法守...
南社の生駒家のとき... 青浦の法守...
南社の生駒家のとき... 青浦の法守...

西福寺

行原町... 法守土...
行原町... 法守土...
行原町... 法守土...

本寺... 法守土...
本寺... 法守土...
本寺... 法守土...

兵部小... 和年中...
兵部小... 和年中...
兵部小... 和年中...

愛行院

日新小... 和山中...
日新小... 和山中...
日新小... 和山中...

本尊兼師如來

如來... 聖天堂...
如來... 聖天堂...
如來... 聖天堂...

法守社

法守... 法守...
法守... 法守...
法守... 法守...

高寺... 法守...
高寺... 法守...
高寺... 法守...

宮物

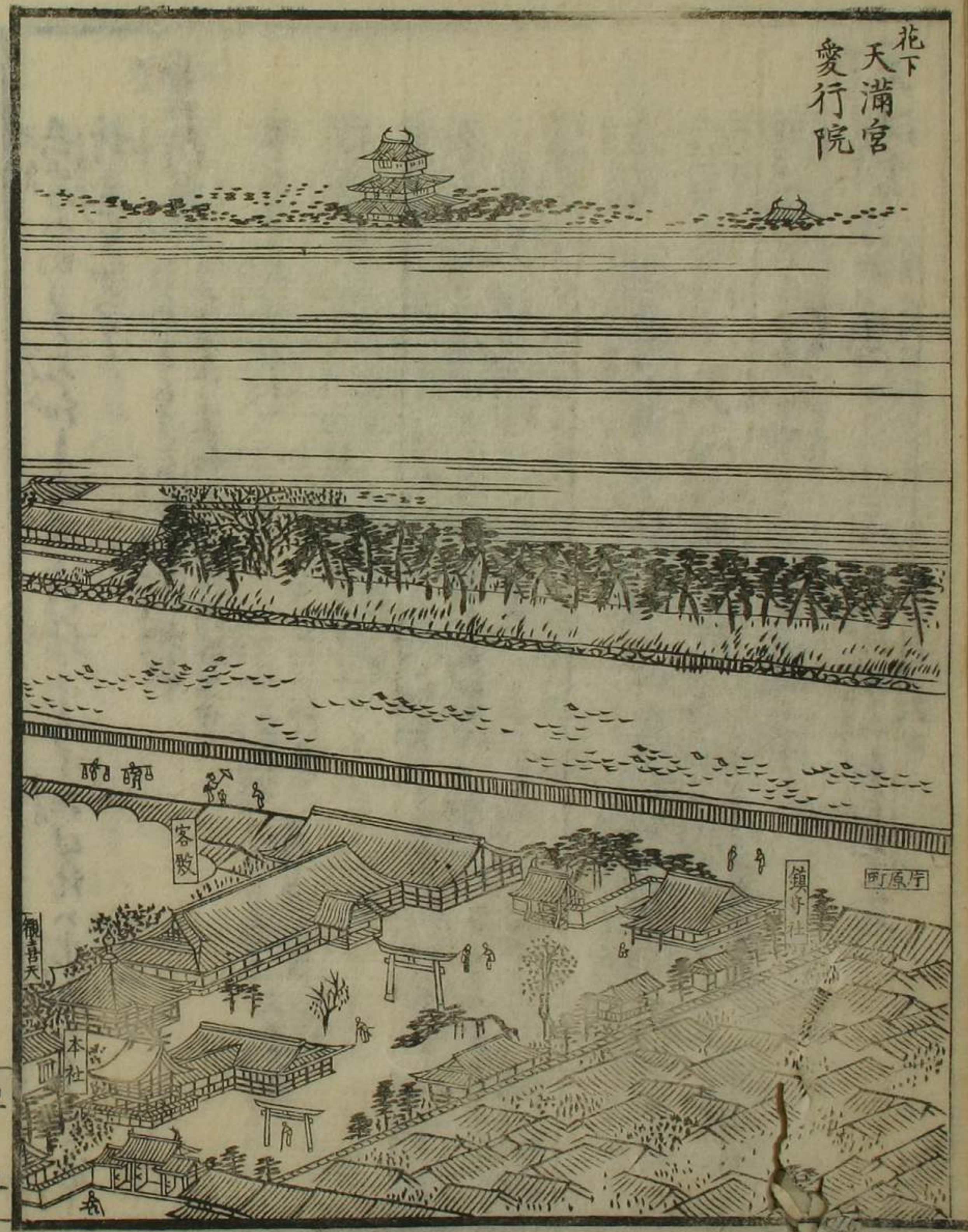
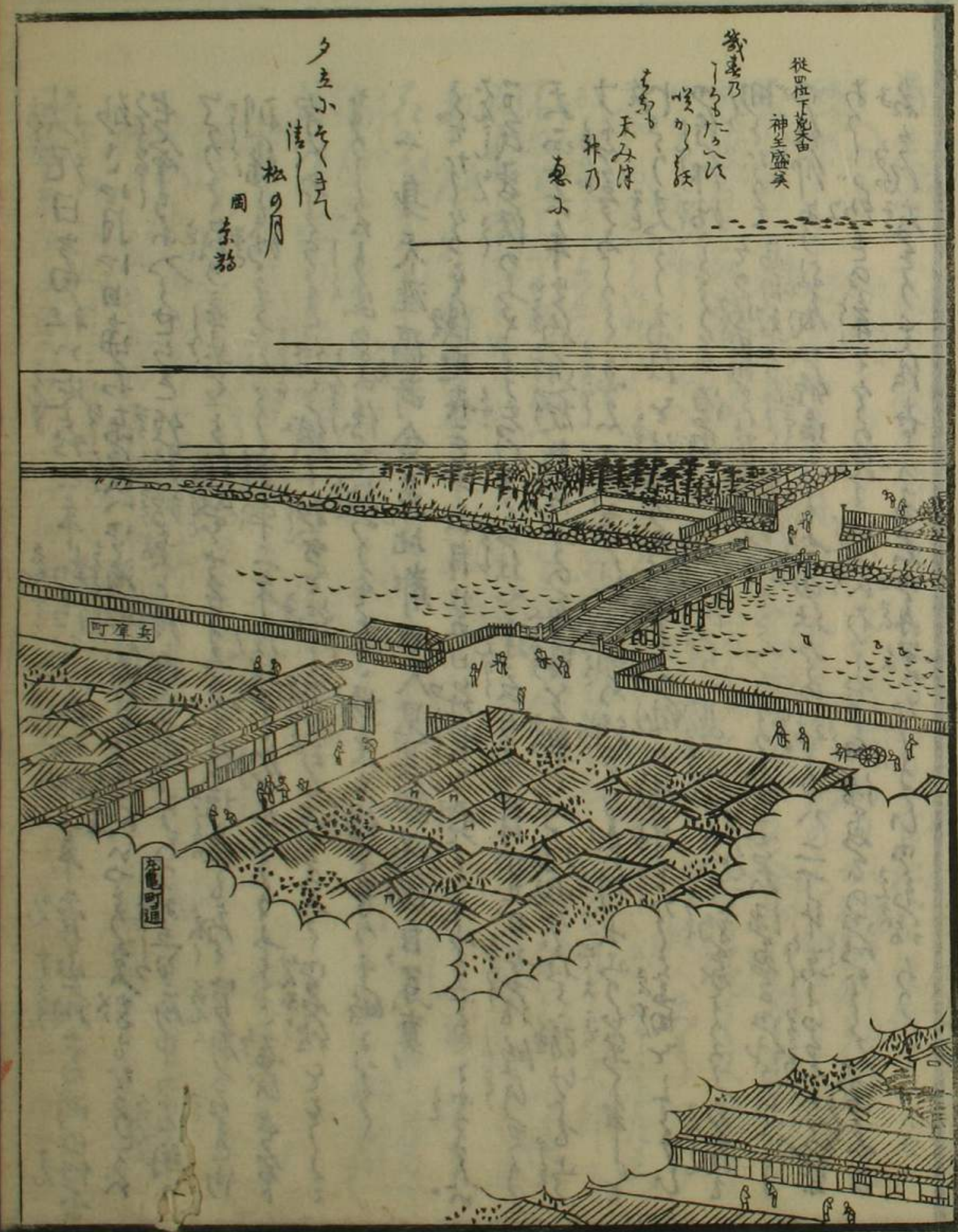
宮物... 宮物...
宮物... 宮物...
宮物... 宮物...

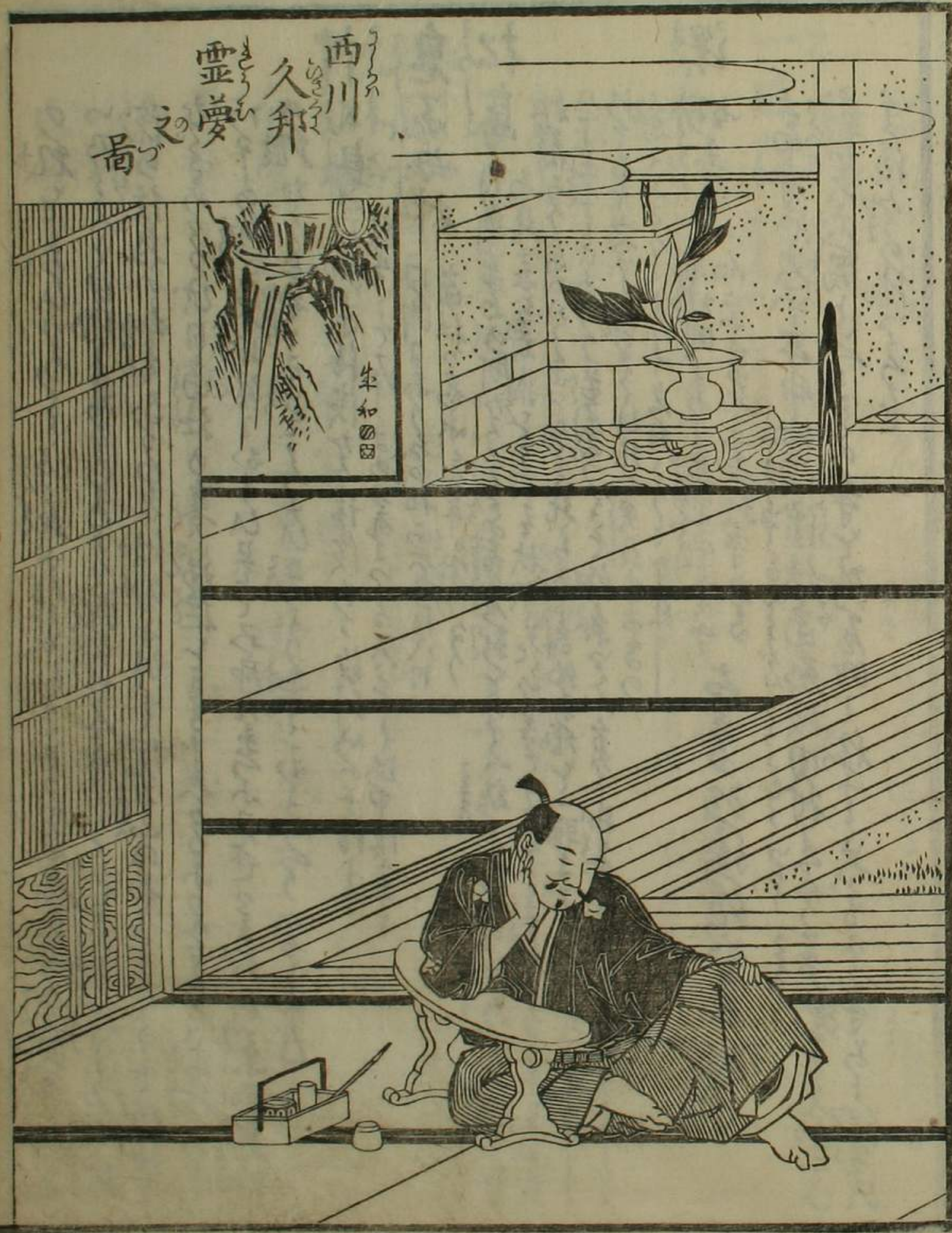
智度天

智度天... 智度天...
智度天... 智度天...
智度天... 智度天...

天満宮

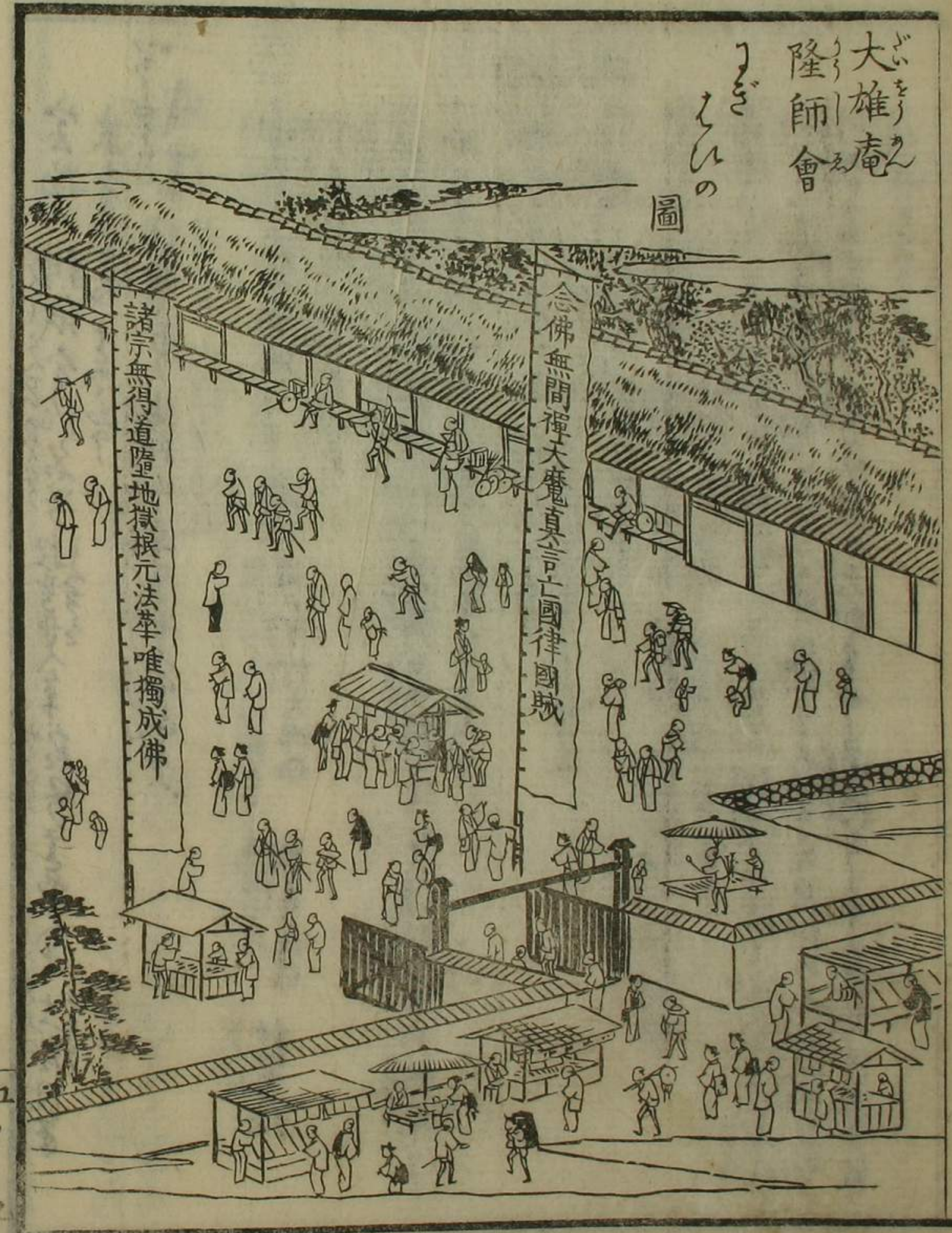
天満宮... 天満宮...
天満宮... 天満宮...
天満宮... 天満宮...







春翠画 四



大雄庵
隆師會
の
圖

五ノ九

千日念堂

凡河内あり竹庵あり七月十日

西の谷地

日向西南あり七月十日

本寺の跡

地蔵堂

多賀大明神 梅川のありあり竹庵あり六月十三日

静観荘

名山勝水人皆愛之佳景絶境誰不賞之然或殊方域或隔雲浪

静観荘記

則不得致望唯馳思而已讚州家老彦坂去年高松城下別荘山水周匝景境備矣耳既聽之目未見之頃間去年候江府寄其地因請家兄直民以求扁額乃以静観荘之取諸程子所謂万物静

觀皆自得也於是就余請其記余素無由南遊則彼莊不可得而見之得見其丹青斯可矣猶少陵披輞川因以換面視魯直題煙雨畫言望我洞庭乎晝既入目編懷益切先檢壯中之趣則開百頃池床下臨水而坐渡丁字橋於坤隅以通往來群魚泳躍活々潏々嗅香餌而出聞入声而去動鱗掉尾列隊戲樂春則白櫻重千尺之糸牡丹向北日之榮夏則蓮華濯漣納北窓之涼秋則黃菊紅楓交色掩映冬則霜松雪竹風杉煙松不改歲寒之操崔嵬相對枿欄散影於其間石菴放燈於這也佳木群卉之區蒲萄顆々之架蔬菜種々之場其餘所有不遑枚舉若夫磬控之場縱送之探則武夫家々之事不及述之環莊之外田疇分溝稻麥連綿坂田川東流踰南山而入北海皆是縮遠聚景就中屋島為其大觀島連北海而南面穿浪突出其南接陸原沙渺茫乃是源平之古戰場也相引之潮分舟馬之影牟禮之松風餘鯨波之響昔天智天皇築城於此島為海防之鎮南平旗迂行宮於是彷彿厓山之蒙塵所謂在漁不在險矚眇之間豈不感慨哉唯今長崎之成候風煙不揚萬里波穩客舟商舶征帆遠揚談有言日遊仙之窟也若使景純文成輩到則可以遺懷可以招魂島東有尖峯高而聳彼源平之相挑飛鏃急於縲絲故以矢縲祢焉果其然則教經之鑄遺其尖勢

乎九即勇威陽侯不能敵嗣信義死千歲有餘情莊之北隣有
 松島編戶燒鹽電煙幽而寂寥其背則北海漫々遙興備之前
 州對有許多島浮於其間如萍如芥望西則白峯之雲飄金鴨
 之色而怨竟爵乎龜山神祠移鳩嶺之影而雲風肅然斜仰乾
 方則高松巍々鏡石穿堅疊三層之樓為一洲之甲顧南則遠
 山岑蔚撐天衝雲暗嵐千里橫臥讚阿二州傳閱源廷尉所起
 大坂之艱亦在其中此是猛將雄斷武林快談豈可恣於心乎
 允遐迤勝狀百千猶多匪是而已言之長也然提其要則不在
 山水之外釣是山也有最高者有堆秀者有低小者釣是水也
 有洋海有長川有細流譬諸人品之崇卑貴賤亦宜然乎嗚呼
 玄年為一家之老而上有奉仕之君中有副貳肩隨之僚下有
 群士庶民之可懷則如在堆處而仰其高臨其卑如視川之宗
 海而不漏流乎若信余言而遠指山水近取諸身則其所靜觀
 冀其可自得乎

世享元癸丑歲嘉平中旬日

林恕 初名春勝号春奇 又鶴峰幕末儒臣

詠歸亭 覺善寺

日向の北ち乃と信てかすんうす原谷家の別荘なり
 覺善寺 福田町ありて松島山と号す
 本寺の山名は松島山なり 又松島山と号す

新橋 松島川口 鬼子母神社

三橋以北水連天 八里堤松緑似煙 此處春秋多勝事 雨暈晴釣客兼松 幸田惟親



八丁堤
沖松嶋

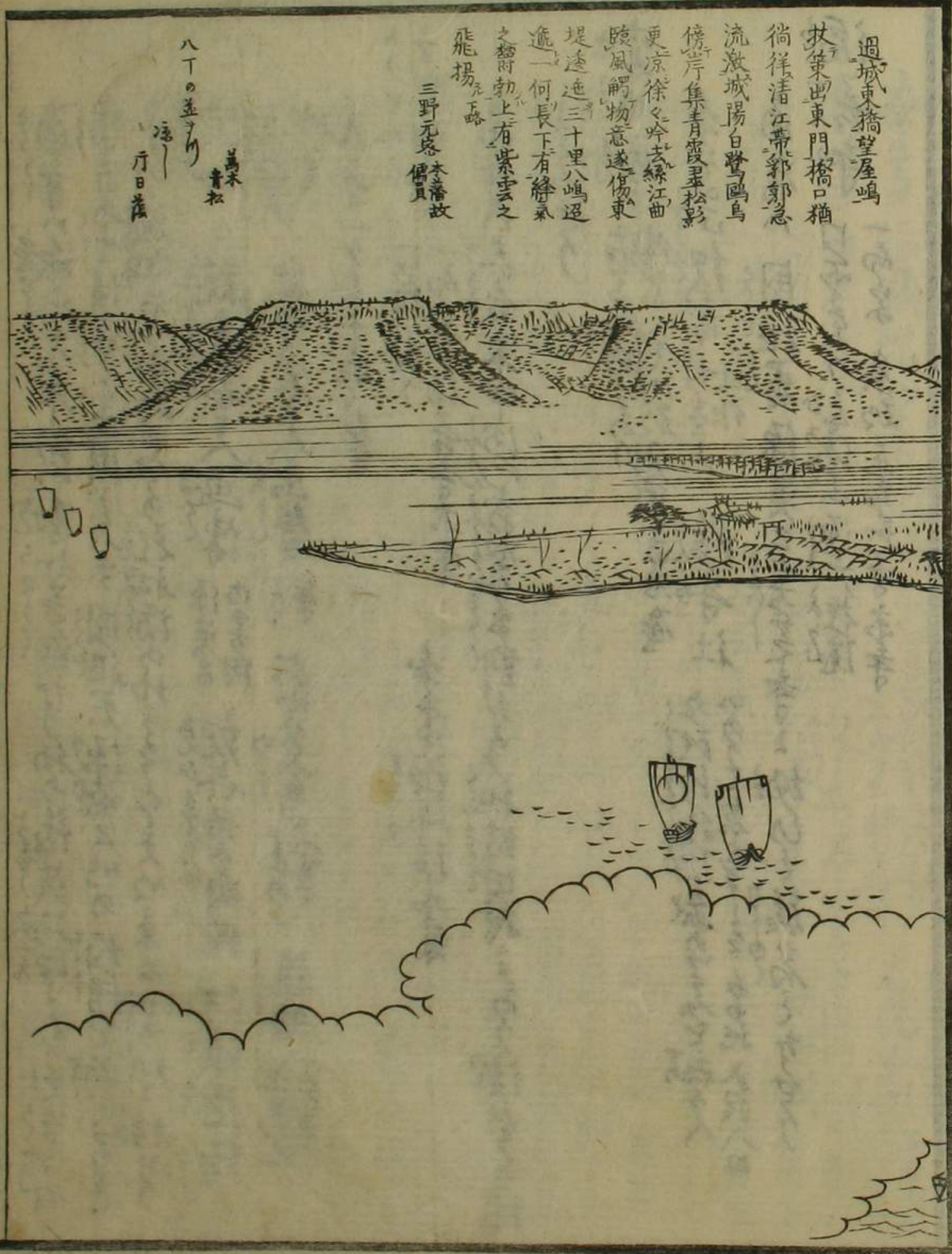
八丁堤
沖松嶋
女連世
石乃山
あなを
くまひ



過城東橋望屋嶋
杖策出東門橋口猶
徜徉清江帶郭郭急
流激城陽白鷺鷗鳥
傍岸集青霞翠松影
更涼徐吟去綠江曲
隨風觸物意遂傷東
堤遠迤三十里八嶋迢
遞一何長下有綠氣
之翻動上有紫雲之
飛揚

三野元略 大藩故
僱員

萬木
青松
八丁の並り
江戸
月日産



湛会寺 口跡 即往寺 口上 至余南郡八ヶ倉を以て寺

圓重寺 口跡 本寺 河津位也

安樂寺 口跡 本寺 河津位也

極樂寺 口跡 本寺 河津位也

本覺寺 口跡 本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

興山寺 本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

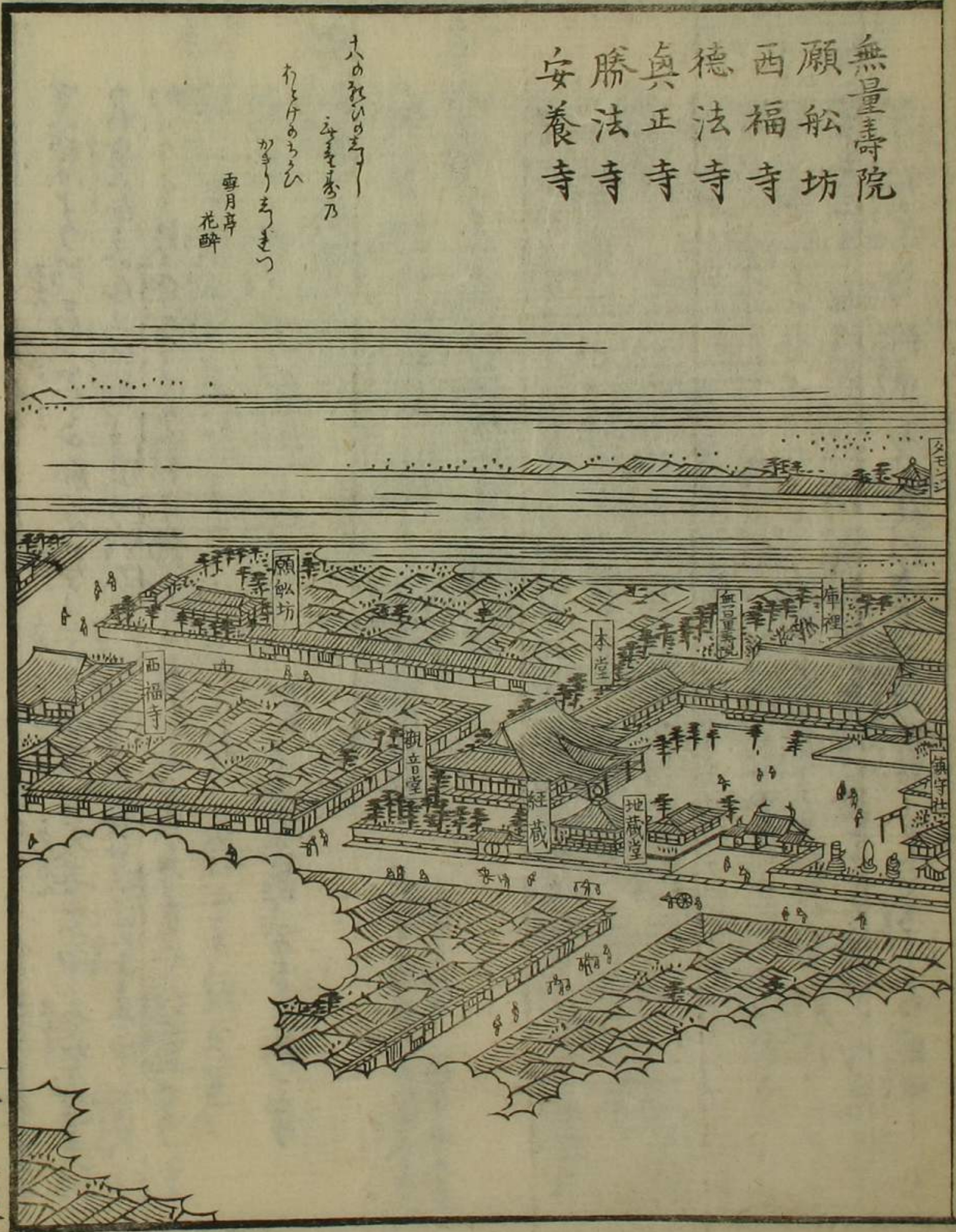
本寺 河津位也

本寺 河津位也

本寺 河津位也

無量壽院
願船坊
西福寺
德法寺
眞正寺
勝法寺
安養寺

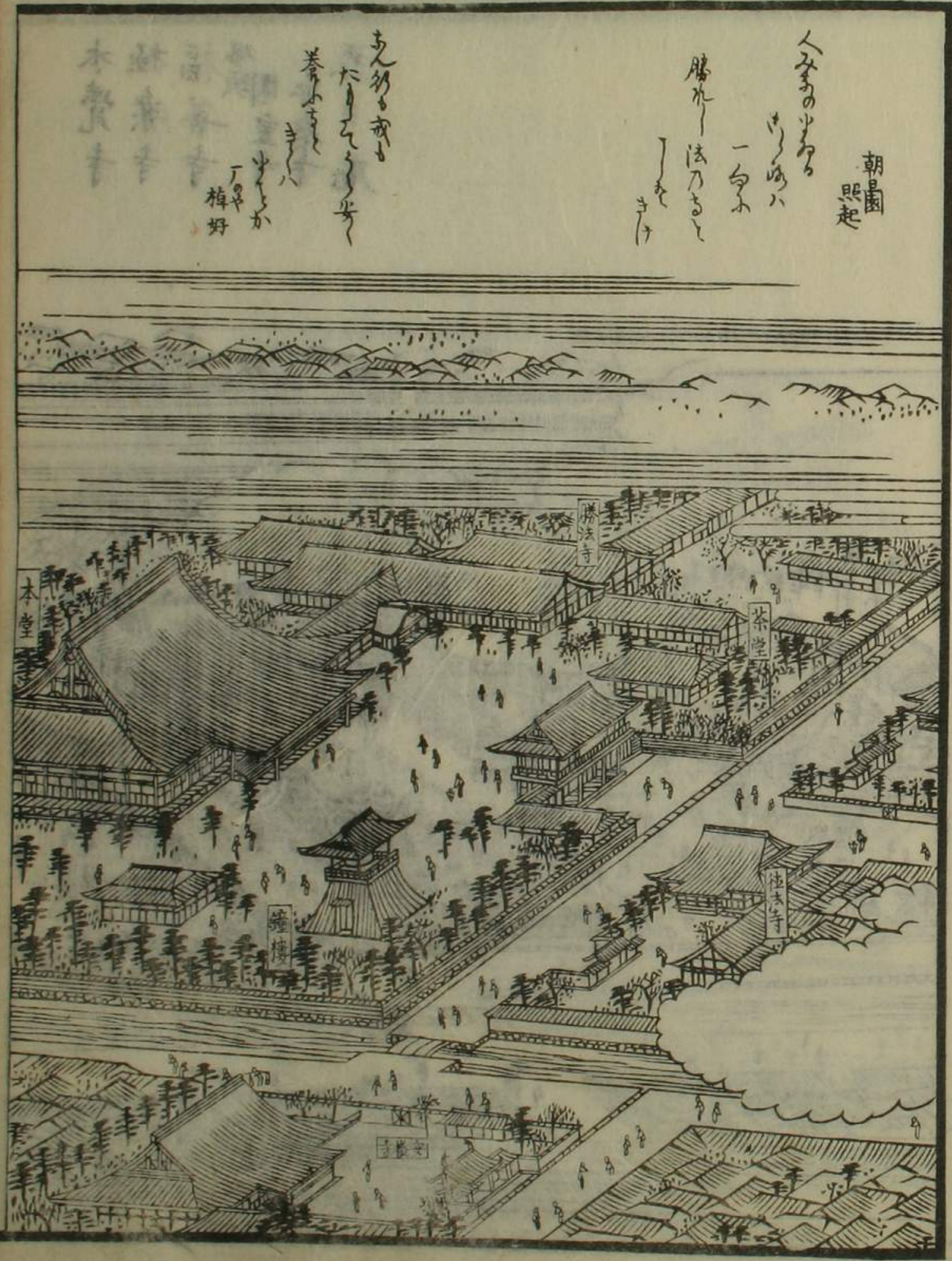
大の初日のついで
ふまを香乃
わとけのうらみ
かきくまうま
雪月亭
花醉

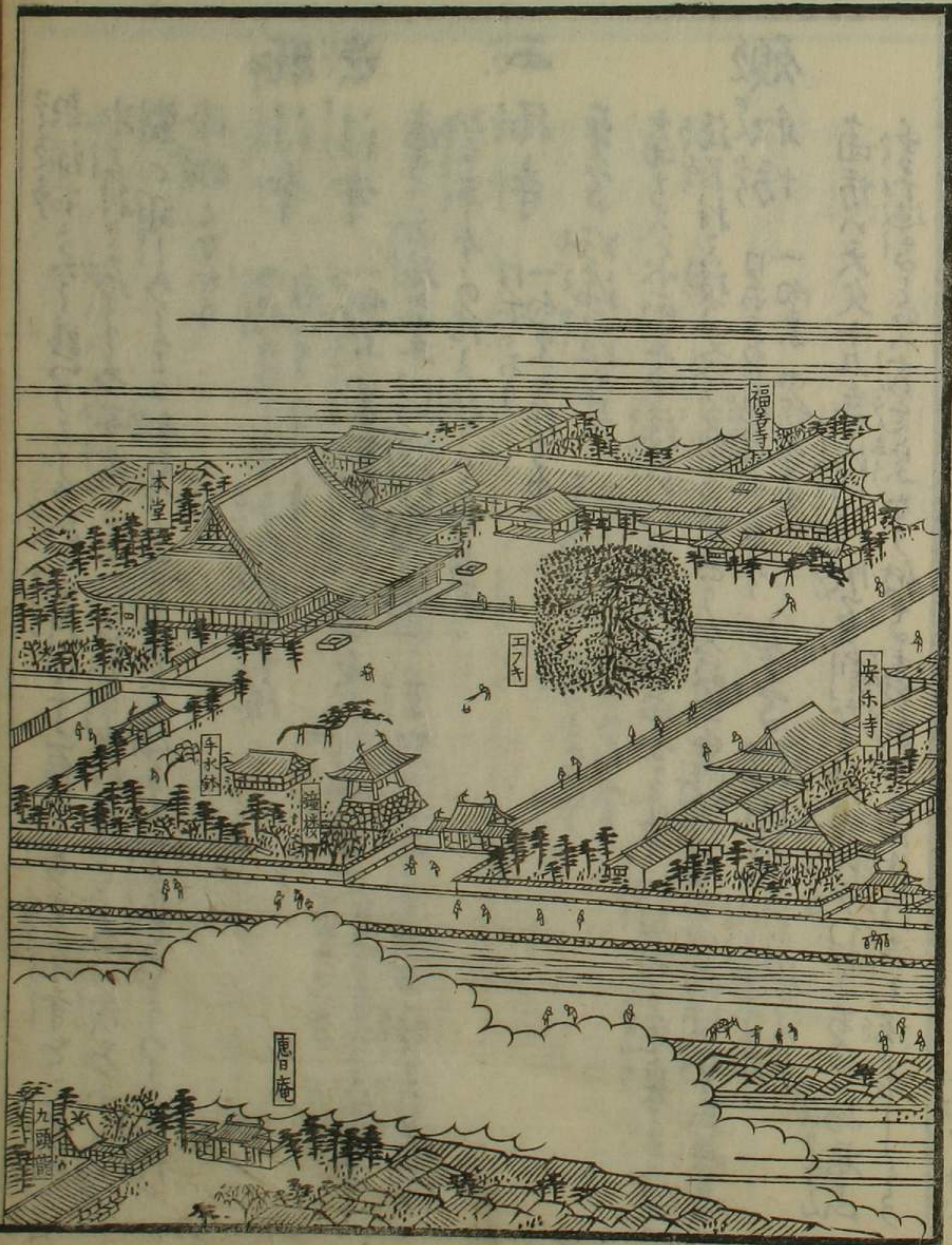


五ノ十五

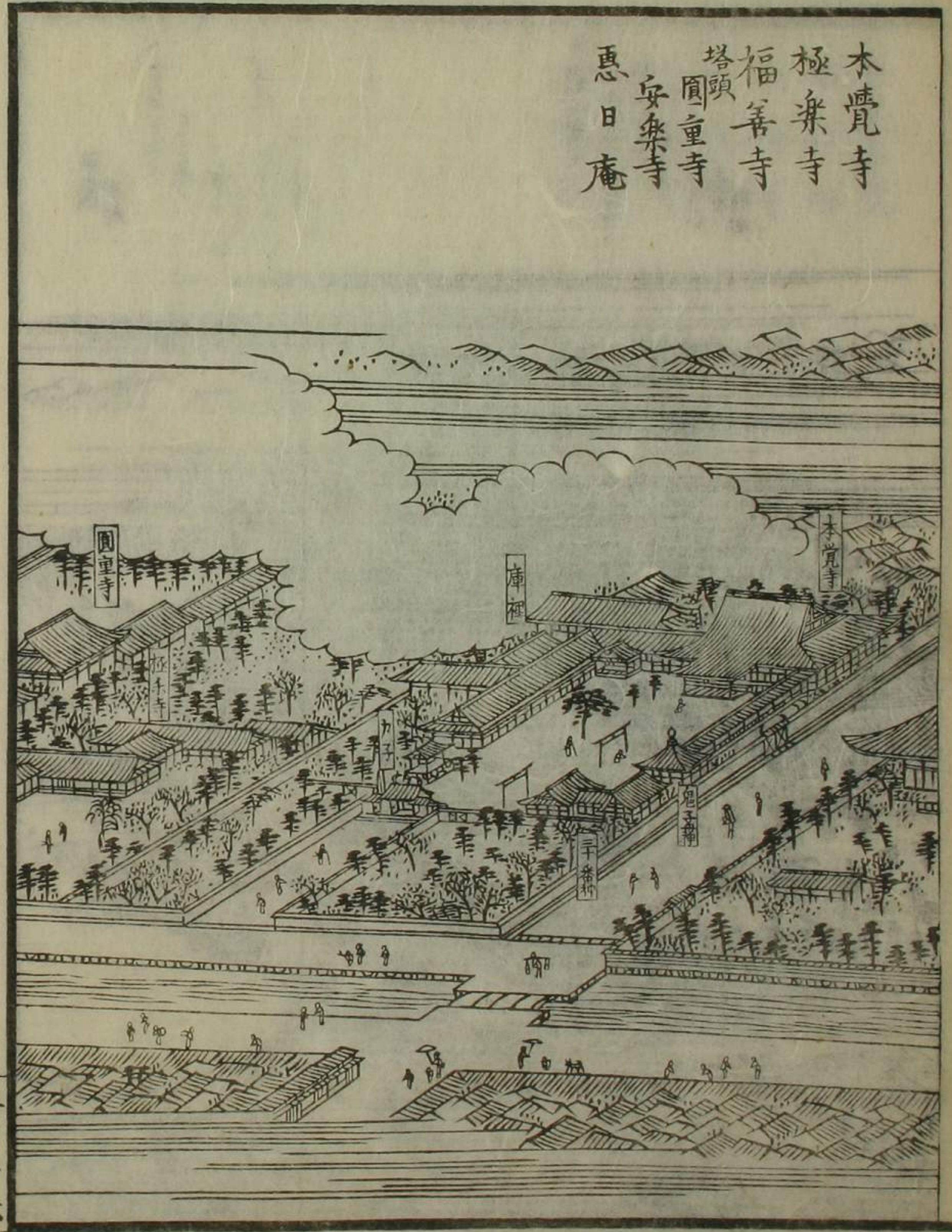
朝園
照起
人々の少く
いふは
一白ふ
勝水法乃
さけ

支那の武
たむらう
養小
きん
さし
丁早
梅好





本覺寺
 極樂寺
 福善寺
 塔頭
 圓童寺
 安樂寺
 惠日庵



文安二丁卯七五

住持増専傍云宣言旨

文明五年七月七日 宣言旨

法印増専

宣任権僧正

藏人右近衛権中將藤原公兼 奉

大永年中の論旨略之

當寺の如く女房奉書

あまのついでにせんしゆりててくまのり
ついでにせんしゆりててくまのり

多聞寺

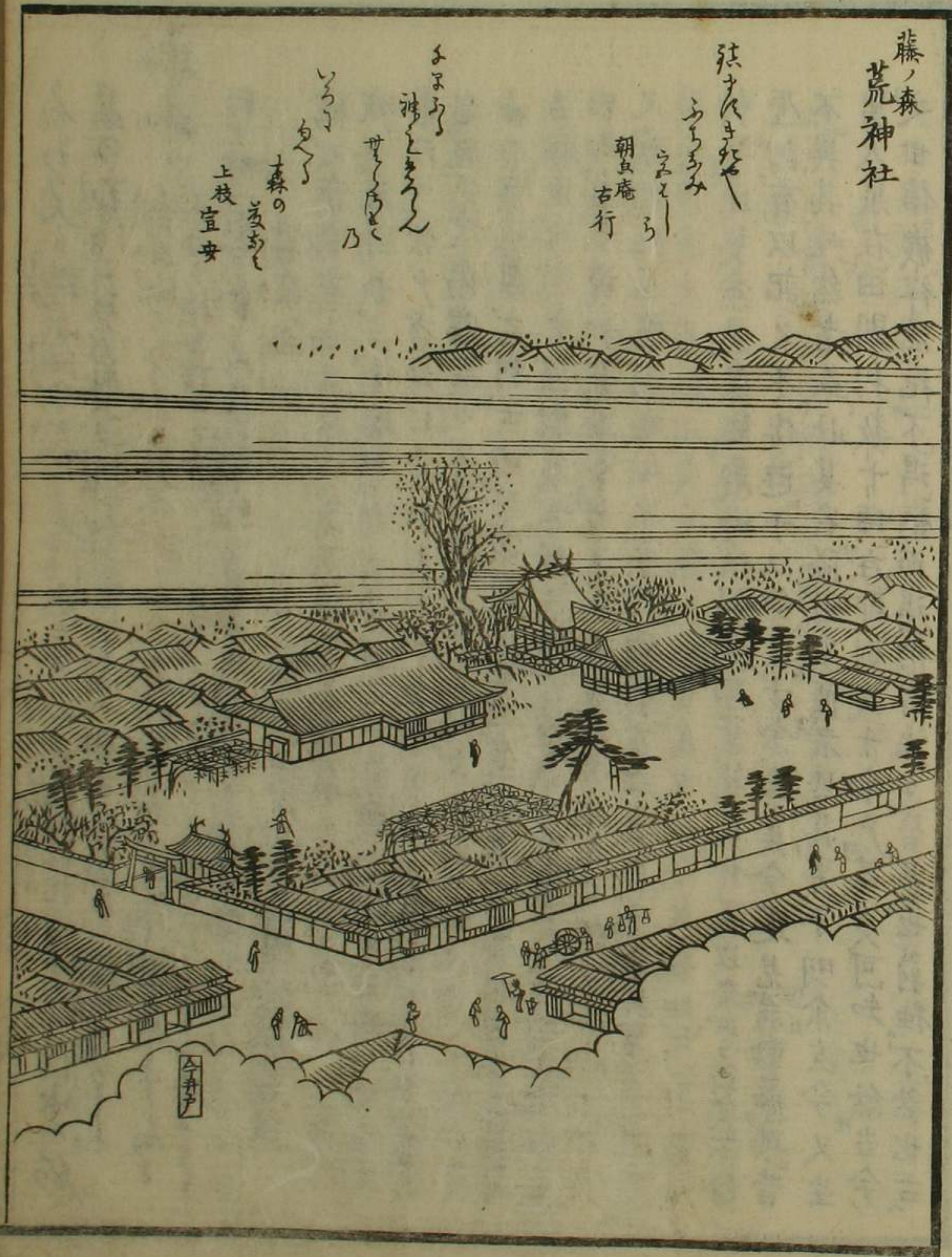
本寺の因沙門天

尚寺開基未詳之縁年中再定セリ

藤原氏

藤原氏

尚社隆禪未詳之縁年中再定セリ



藤ノ森
荒神社

法王のまき

あまのついで

朝良庵
古行

あまのついで

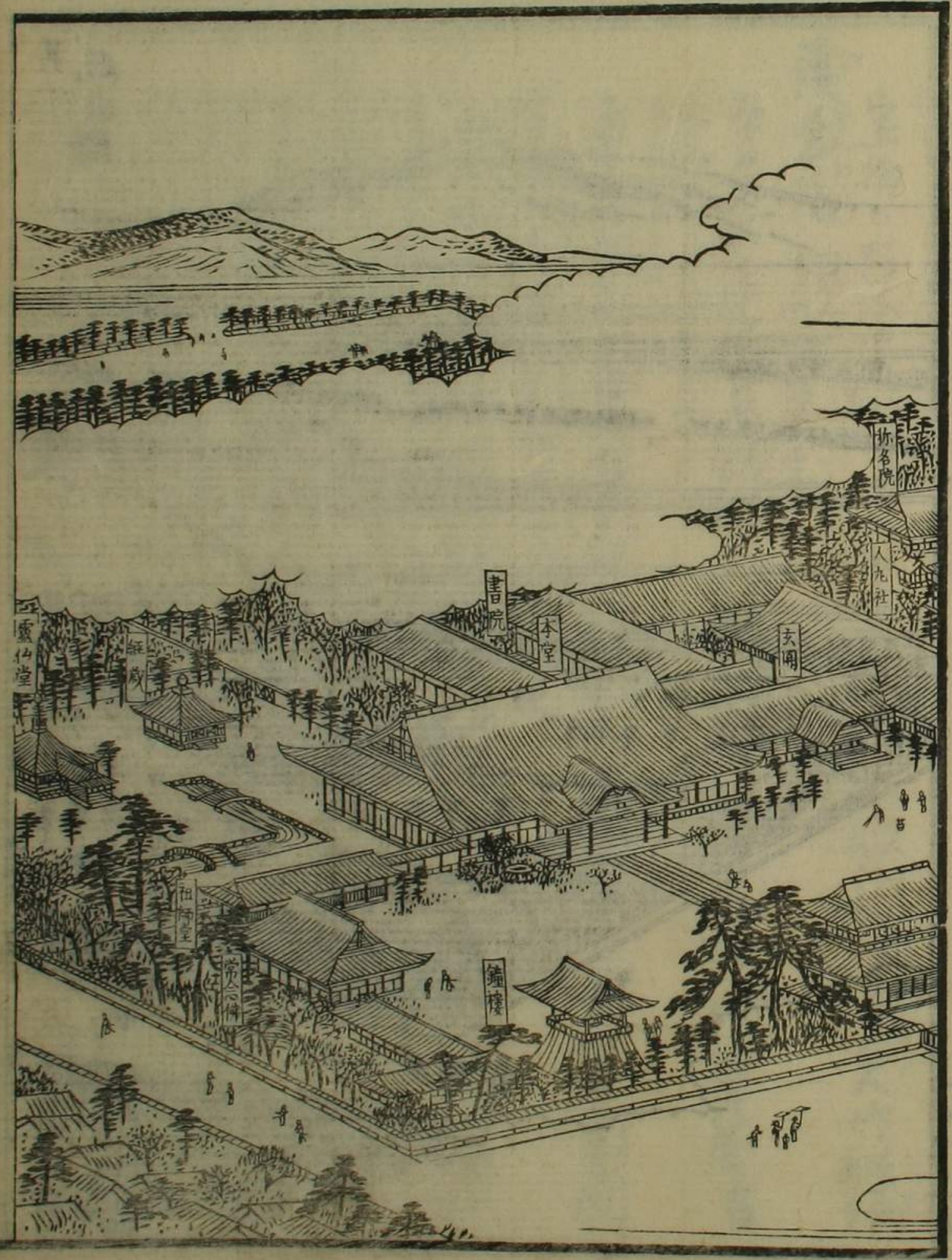
あまのついで

あまのついで

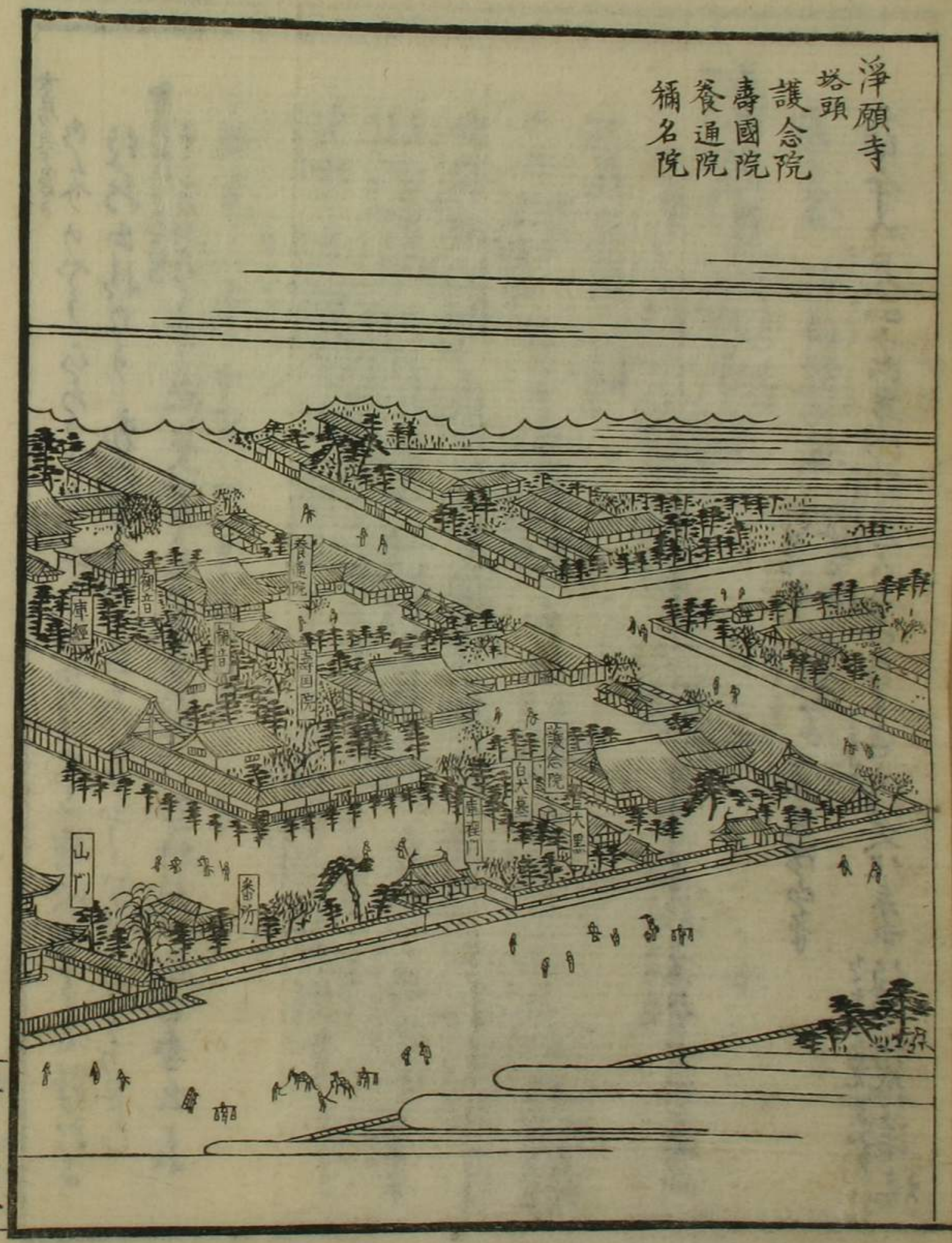
あまのついで

あまのついで

上枝
宣安



淨願寺
塔頭
護念院
壽國院
養通院
彌名院

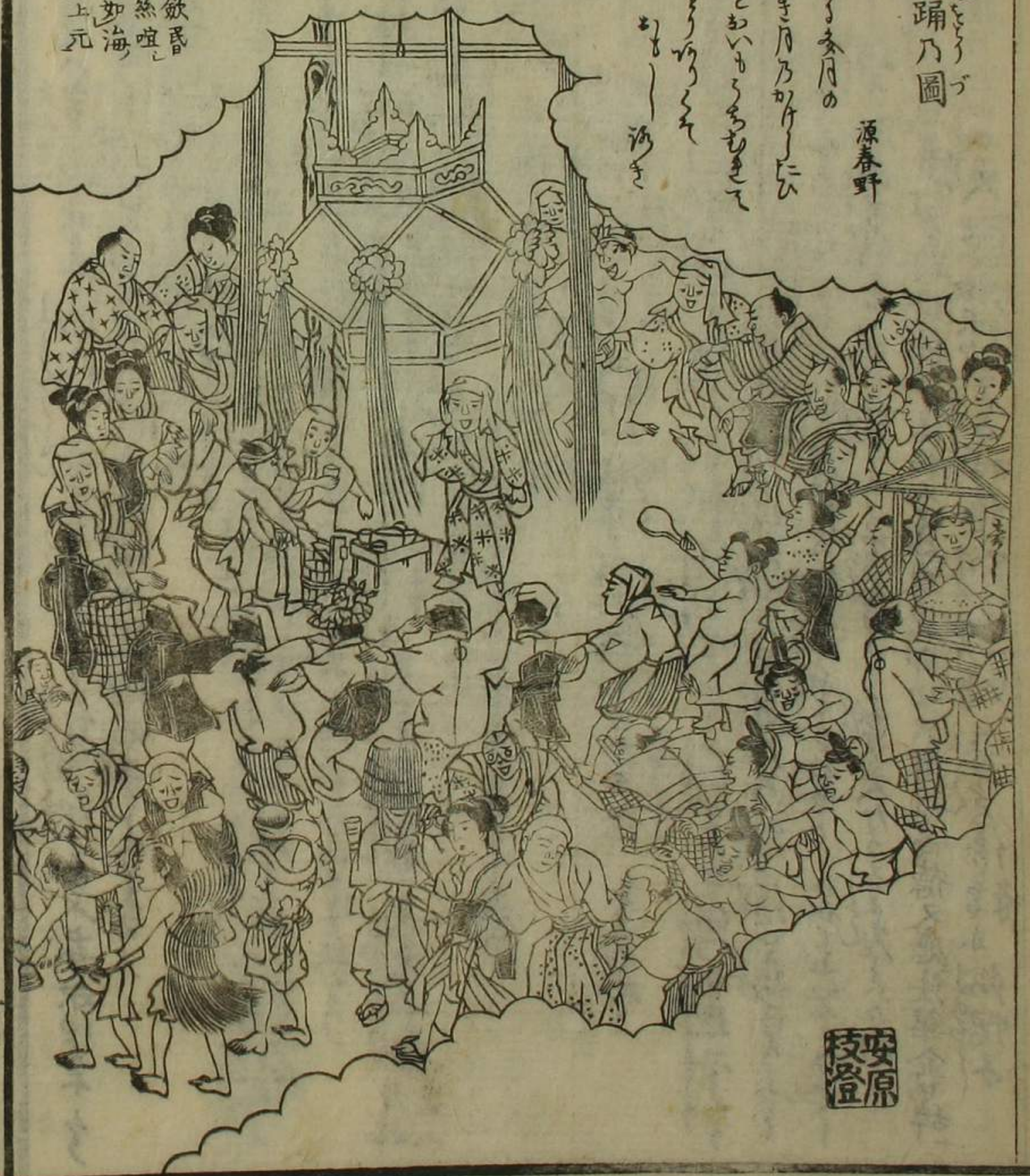


五ノ九三

盂蘭盆踊入圖

源春野

味うおつる夏月の
まろき月乃かけしに
りつきとおいもちもきて
まろき月乃かけしに
りつきとおいもちもきて



安原

中元竹枝
展幕歸來已欲昏
滿街涼月肉絲喧
城門放夜人如海
儘認中元作上元

全
徑丈紅燈奪月光
登塲幾個踏謔娘
不言姿態之柔媚
粉黛通真時樣粧

全
男裝巧學木蘭姿
室釵橫映映月輝
目捷誰家遊冶子
象中瞥見猶羞衣

全
幾行翠展玉珊々
杏袂飄風舞素絢
至竟妍媸應有別
夜來渾作越越着

全
寺々蒲牢報曉更
街頭猶沸踏歌聲
少年只道秋宵短
紅日以竿竿尾惜

片山達



法華經 並法華云 日蓮二年 佛身 切 其 曼荼羅 及 佛具 人等
曼荼羅 日蓮口傳 日蓮 色紙 三業 實際 千金 寶物 あり 惟 も 是 を 思 考 せ
善昌寺 日蓮あり 理蓮宗 善昌院
法華宗 善昌院 あり あり

本寺 善昌院 新造 法華社 三表 神 春品 拜
海中 如 現 日 蓮 大 善 信 正和 五 丙 辰 十 月 十 日 願 聖 佐 野 源 左 衛 門 尉 常 興
燒 佛 奉 再 興 蓮 師 大 士 像 足 利 氏 旗 氏 連 長 久 為 祈 禱 右 之 像 辨 阿 闍 梨 日 照 拜
尚 寺 寫 基 善 祥 宗 長 年 中 小 村 末 再 興 乃 天 文 十 年 の 縁 起 本 寺 あり

徳成寺 日蓮あり 大和山 あり
本寺 阿彌陀 尊 像 大和山 三子 善 信 あり
尚 寺 善 昌 院 長 年 中 小 村 末 再 興 乃 天 文 十 年 の 縁 起 本 寺 あり

心覺寺 日蓮あり 善昌院 あり
本寺 善昌院 あり 法華社 あり 天 智 大 師 像 あり
尚 寺 天 文 十 年 一 乃 和 為 善 昌 院 乃 初 之 善 昌 院 末 あり 乃 之 後 法 華 善 昌 寺 乃 又 國 祖 君 源 基 宗 聖 乃 四 十 寺 之 建 立 あり

地蔵寺 日蓮あり 善昌院 あり
本寺 地蔵寺 あり 法華社 あり
尚 寺 天 文 十 年 一 乃 和 為 善 昌 院 乃 初 之 善 昌 院 末 あり 乃 之 後 法 華 善 昌 寺 乃 又 國 祖 君 源 基 宗 聖 乃 四 十 寺 之 建 立 あり

善昌院 あり

宝物。名号 善昌大 三尊 善昌 尊 像 彌 陀 尊 像 あり

地蔵寺 日蓮あり 善昌院 あり
本寺 地蔵寺 あり 法華社 あり

尚 寺 天 文 十 年 一 乃 和 為 善 昌 院 乃 初 之 善 昌 院 末 あり 乃 之 後 法 華 善 昌 寺 乃 又 國 祖 君 源 基 宗 聖 乃 四 十 寺 之 建 立 あり

寶物。又大明王 弘法大 不動明王 二幅 善昌院 あり 法華社 あり

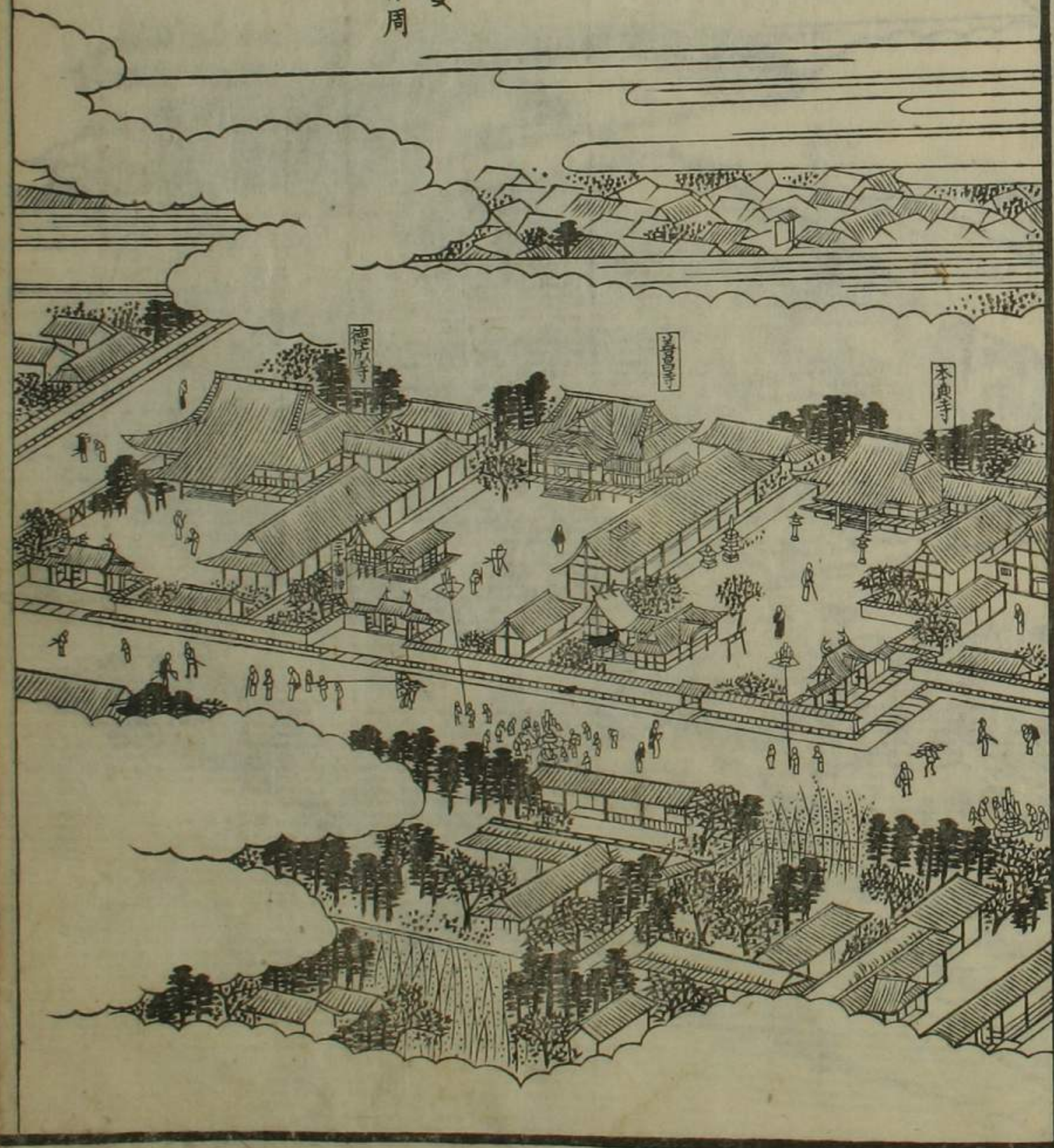
尚 寺 天 文 十 年 一 乃 和 為 善 昌 院 乃 初 之 善 昌 院 末 あり 乃 之 後 法 華 善 昌 寺 乃 又 國 祖 君 源 基 宗 聖 乃 四 十 寺 之 建 立 あり

慈恩寺 日蓮あり 善昌院 あり
本寺 善昌院 あり 法華社 あり

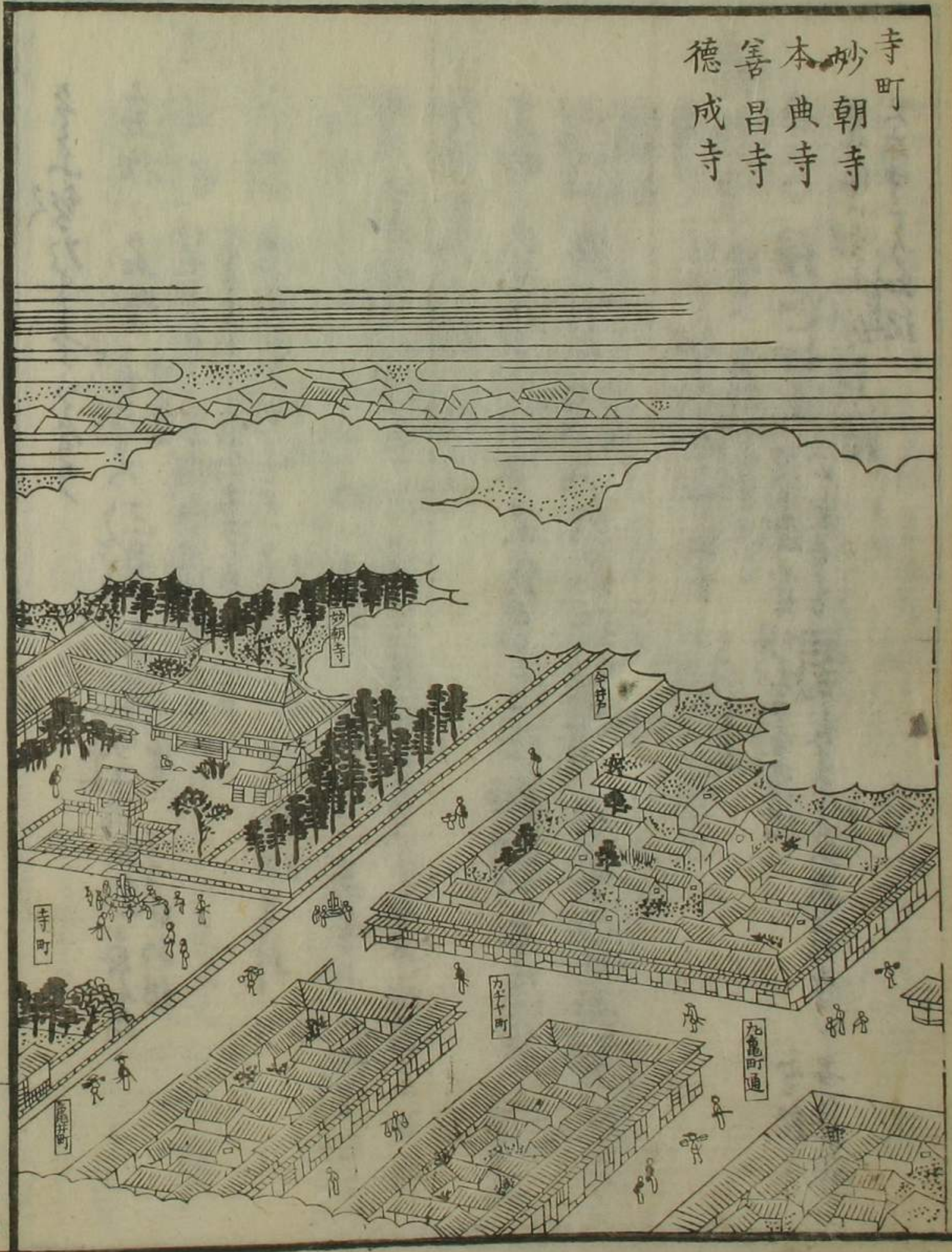
尚 寺 天 文 十 年 一 乃 和 為 善 昌 院 乃 初 之 善 昌 院 末 あり 乃 之 後 法 華 善 昌 寺 乃 又 國 祖 君 源 基 宗 聖 乃 四 十 寺 之 建 立 あり

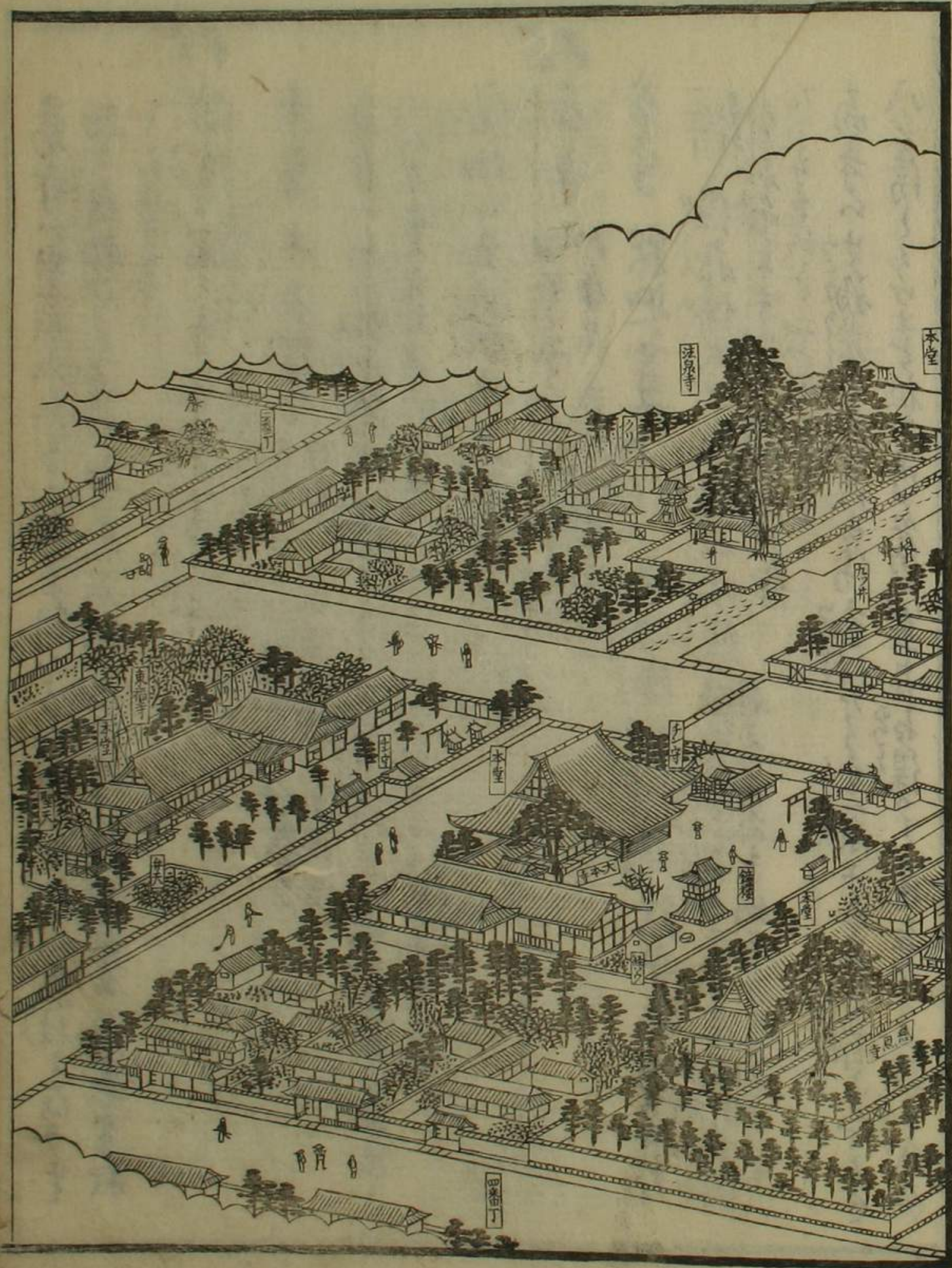
亥子戯の園

汗せぬ
りんのまはれ
大いほち
いひつち
いひつち
小畑
信周

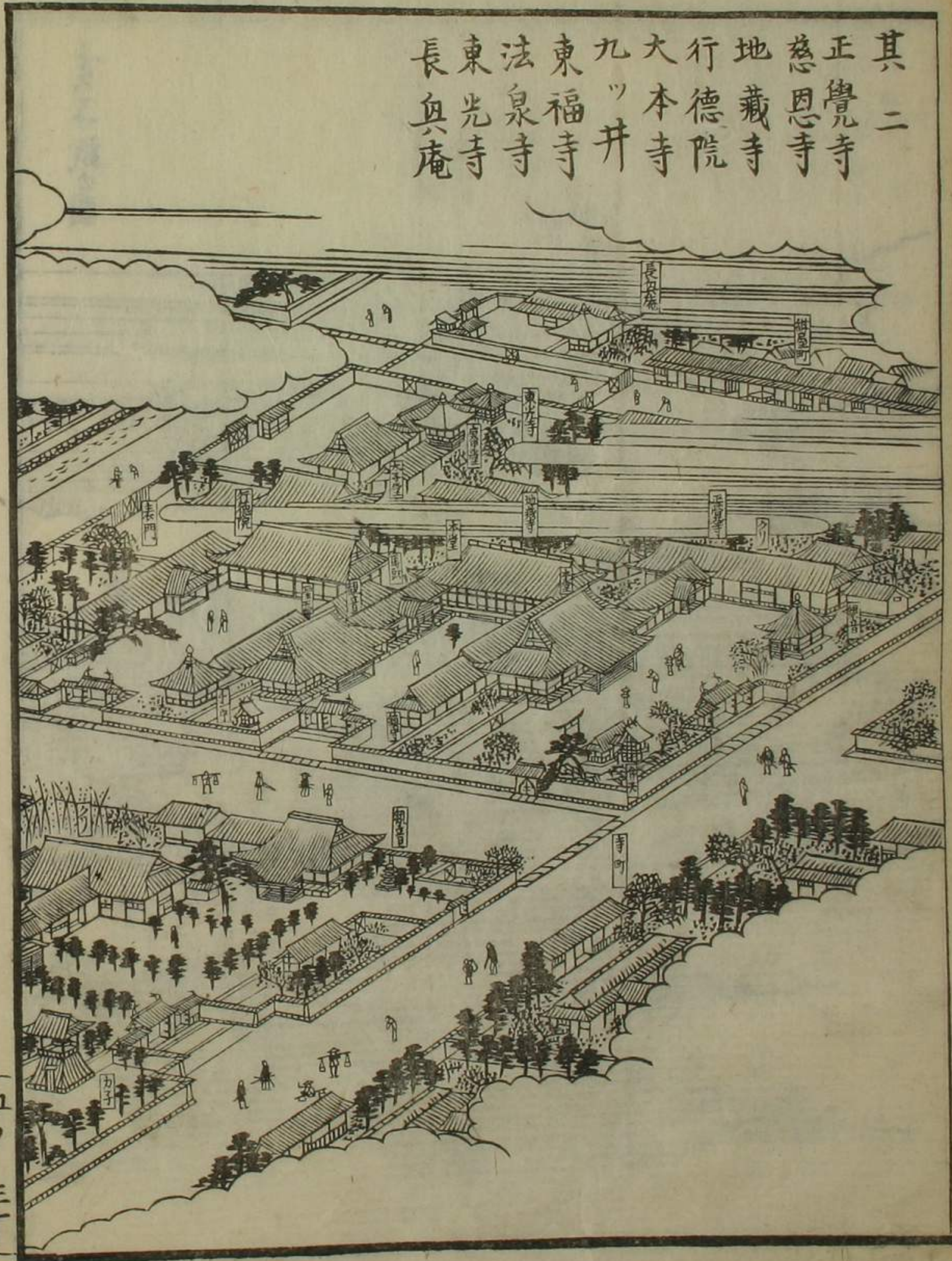


寺町
妙朝寺
本典寺
善昌寺
徳成寺





其二
 正覺寺
 慈恩寺
 地藏寺
 行德院
 大本寺
 九ツ井
 東福寺
 法泉寺
 東光寺
 長真庵



高野寺の寛永九年(1632)に焼く事あり初め河内郡新屋村に在り生
駒宮後頼房より寺代村本末共附し之より後國祖若原美公より

徳院 口ありあり 山福寺 未也

本寺 千手観音 弘法大 不動寺 地蔵寺

高野寺の初め河内郡新屋村にありて本寺は之より河内郡中之他より
つる寛文四年(1664)に和寺より合高となすひさのち号ありてむ

宝物。五大明王 不動明王 大伴信

大布寺

日ありあり 弘法大 不動寺

本寺 釈迦如來 弘法大 地蔵像 昭隆大夫像 陸守社 密子母神

高野寺の初め河内郡西の八尾村に在りて寛永十三年(1636)に
八尾村より高野寺に遷りて和寺と名を改めしなり

高野寺の一日者上人の律作の經を著し之を宣す程存すとの

高野寺の一日者上人の律作の經を著し之を宣す程存すとの
高野寺の一日者上人の律作の經を著し之を宣す程存すとの

宝物。書寫經切 弘法大 曼荼羅及雨息 日蓮大 曼荼羅經二

日隆 日朗 日忠 法華經 經卷廿 純田川 法像 新屋村 釈迦天女十許
國 北 法華經 經卷廿 純田川 法像 新屋村 釈迦天女十許

高野寺の一日者上人の律作の經を著し之を宣す程存すとの
高野寺の一日者上人の律作の經を著し之を宣す程存すとの

七月廿一日

徳尾大納言 花押

南院の井あり九ツ井とす... 徳尾大納言の... 南院の井あり九ツ井とす... 徳尾大納言の... 南院の井あり九ツ井とす... 徳尾大納言の...

末尾 壽徳庵

九ツ井

東福寺

本寺 妙法社

本寺 妙法社

南院の井あり九ツ井とす... 徳尾大納言の... 南院の井あり九ツ井とす... 徳尾大納言の...

法泉寺

本寺 妙法社

本寺 妙法社

本寺 妙法社

本寺 妙法社

本寺 妙法社

慶長十五年庚戌三月十八日

碑銘

玉龍院殿前讚岐太守

元和七年辛酉六月五日

全

法泉院殿前讚岐太守

法泉院殿前讚岐太守... 法泉院殿前讚岐太守... 法泉院殿前讚岐太守...

鐘樓の鐘は... 鐘の音は...

銘曰

備州金岡窪八幡權鐘一口三尺勢 常任不及声韻
遍聞群類覺死生焚 元德二庚午青陽 神主藤井
弘清并沙彌危道澄沙彌合力吉岡政所制諸方貴賤
銅類物 大工穿連已下等

備州金岡窪八幡權鐘一口三尺勢... 常任不及声韻... 遍聞群類覺死生焚... 元德二庚午青陽 神主藤井弘清并沙彌危道澄沙彌合力吉岡政所制諸方貴賤銅類物 大工穿連已下等

一、平太政權上の鐘は... 國中難燈... 鐘の音は... 鐘の音は...

長興庵

長興庵の鐘は... 鐘の音は... 鐘の音は...

東光寺

東光寺の鐘は... 鐘の音は... 鐘の音は... 鐘の音は...

新とては後國從若原英云の命ありて今のちより不改む天保十一
年正月廿日焼失せしを永承年中再興せり南もふ十河家の位牌を

龍雲院殿義賢實存居士 十河氏初去麻存保
天正十年丙戌十一月三日申刻

龍光院殿存親義道居士 十河依在東門存親
天正十年丙戌十一月三日申刻

十河家從士亡靈 天正十四年十一月廿二日
於豐後國杵築川新死

見性寺

後丁卯海防源林寺指山
後丁卯海防源林寺指山
後丁卯海防源林寺指山

本堂 釈迦心象 待他 大達大佛 今上皇帝 御宇及
御宇及 御宇及 御宇及 御宇及 御宇及

倉堂 蓮華地 祖師堂 親香堂 禪堂 祠堂 經卷 日化

親香堂 日化 法守社 八幡社 金心 本堂 教場

南寺ハ因防國志中寺是深和為の江前合卷一發和為の名刺あり
初加古元年大内親王の御宇に於て南寺といふ文正元年又南寺と云
南寺ハ因防國志中寺是深和為の江前合卷一發和為の名刺あり
初加古元年大内親王の御宇に於て南寺といふ文正元年又南寺と云
南寺ハ因防國志中寺是深和為の江前合卷一發和為の名刺あり
初加古元年大内親王の御宇に於て南寺といふ文正元年又南寺と云

ちれせんと御人の唐二年申より續矢ありと他教和者乃徳の
通寺十世位傳中益和為の甲斐安國入りて武田信玄の叔父なり申す
御人なりと云はれしを南寺といふ文正元年又南寺と云
御人なりと云はれしを南寺といふ文正元年又南寺と云
御人なりと云はれしを南寺といふ文正元年又南寺と云

宝物

台廟 御文 水府 御書 徳吉 御書 徳吉 御書 徳吉

松頭 向陽菴 海花菴 多福庵 福壽庵

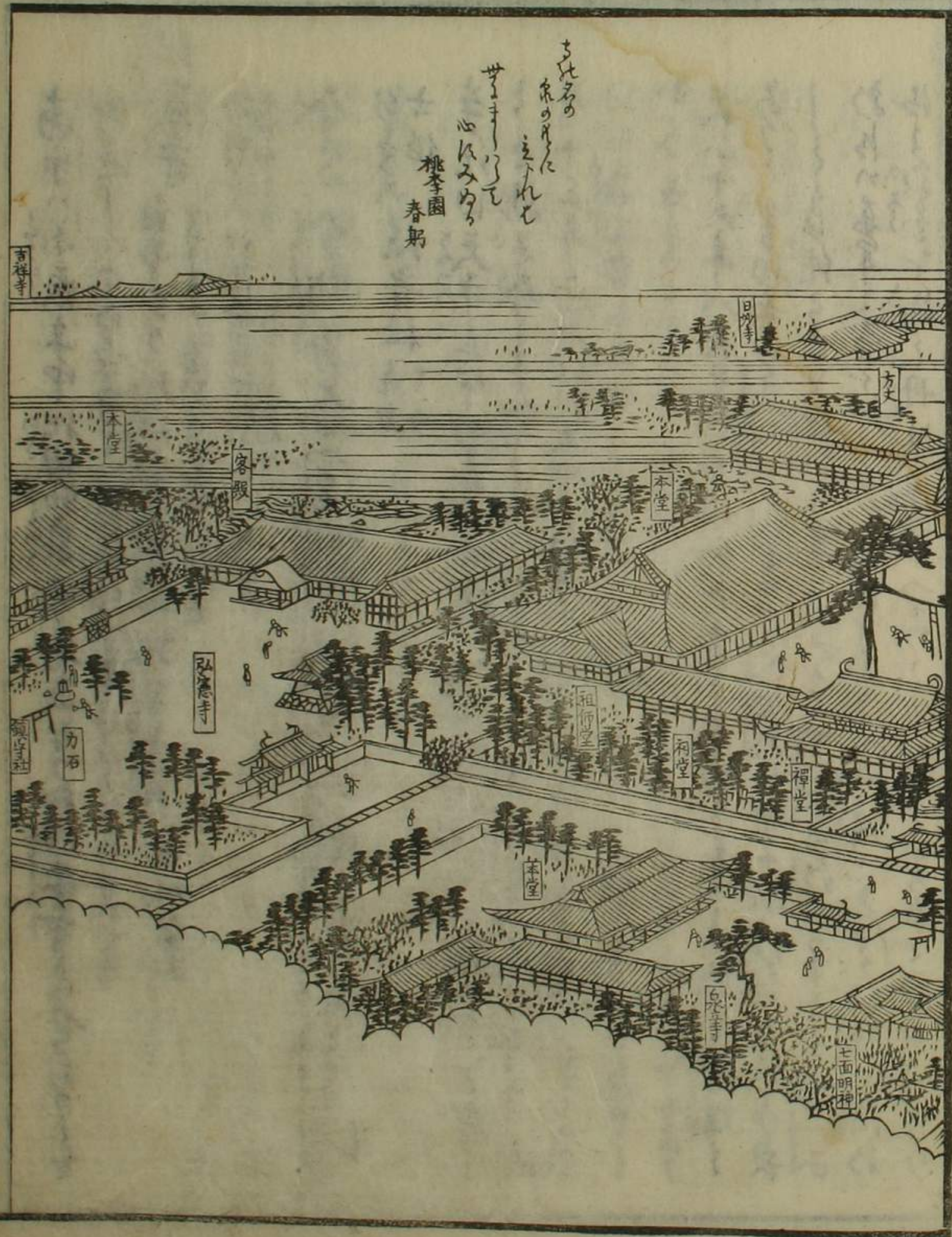
末寺 宝光寺 大内親王 南寺 南寺 南寺 南寺

泉立寺 日取 ありて此山中なる也 ありて此山中なる也

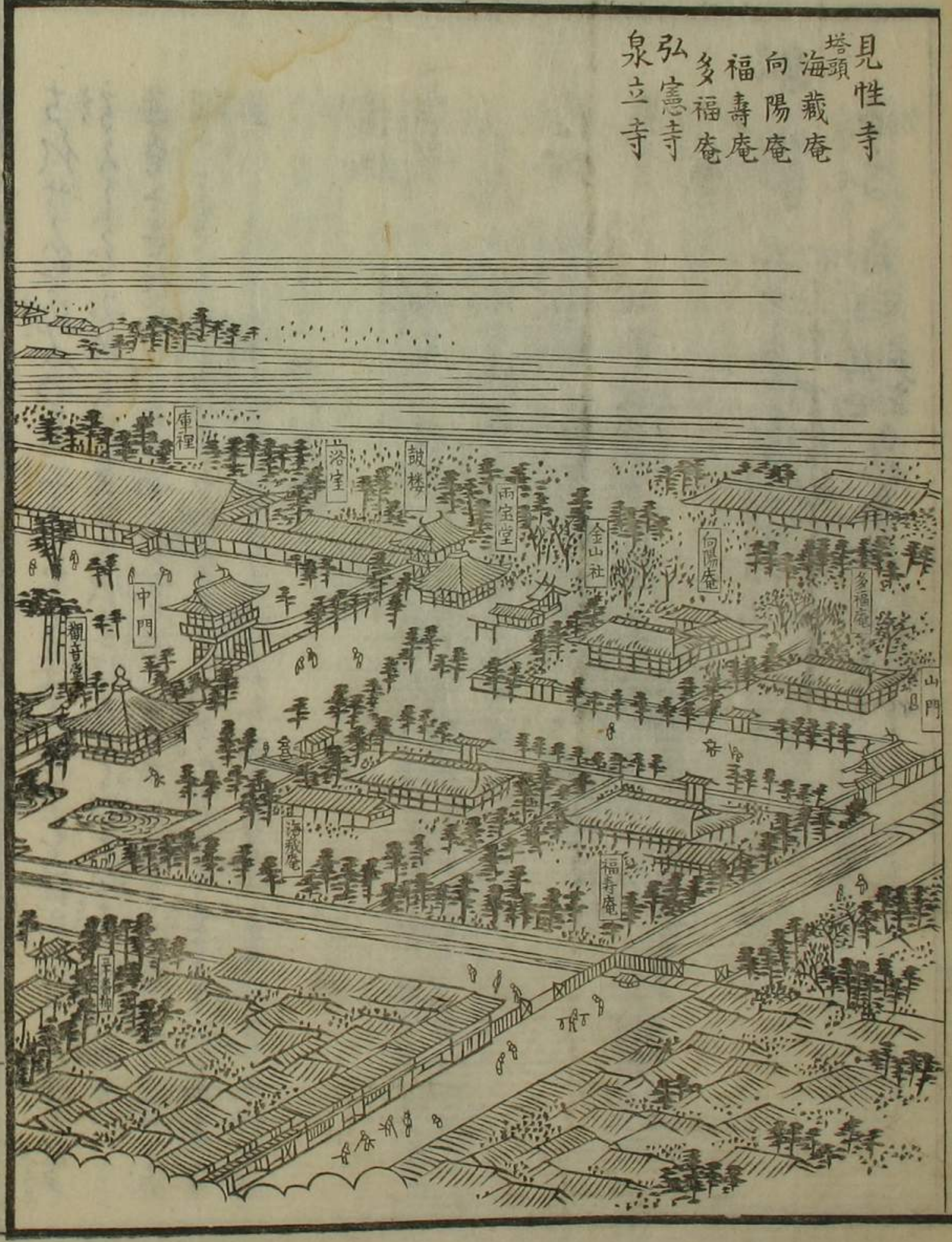
寺 首領 教也 法守社 三十三所 法守社 三十三所

寺 首領 教也 法守社 三十三所 法守社 三十三所

寺 首領 教也 法守社 三十三所 法守社 三十三所



古比名の
 東の月を
 主として
 サマシ
 心はみわ
 桃李園
 春期



見性寺
 塔頭
 海蔵庵
 向陽庵
 福壽庵
 多福庵
 弘憲寺
 泉立寺

吉祥寺

世のちりて
おとろし
まゝにし
多分ふちれ
庄のまじり
富山
定静

鶴鳴松

本堂

客殿

五ノ卅九



若爵護斎寺不知
何代松枝高宜宿
鶴幹光年成龍
三井雲航傑頭山

富山
襟女

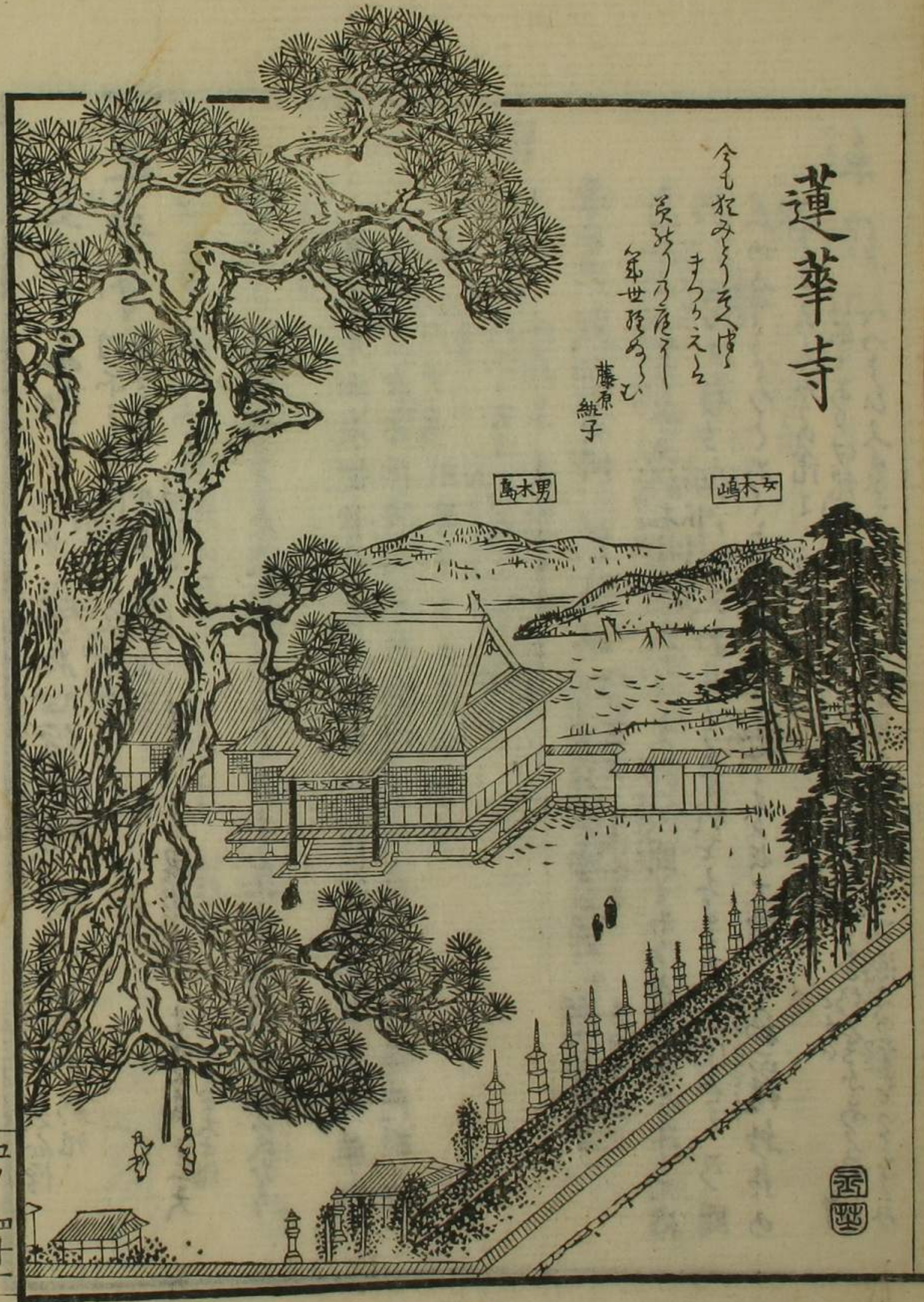
鎮守社

西
正



蓮華寺

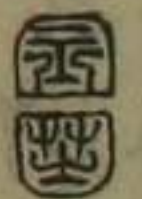
今も花みくろくすく
まつりえと
英妙乃乃屋
余世孫の
藤原
純子



島木男

嶋木女

五ノ四十一



蒼々偃蓋古松姿
憶昔高僧手植時
定有騷人佳句在
入門先問寺題詩

三野知彰撰

あはれは原のうき
みきりのやうに
かゝるこゝ
ふきのすけい
あつらひきり



雲の秋木... 城口呼舟夕江心生浪時雨侵晴處去雲逐望中移笛響
更如聽棹搖鷗不疑忘機猶泛泛一任晚風吹
薄暮綠江雨忽從推戶懸風帆驚鷺色画裏接津煙

糸江臨汎

三野元密 本藩故儒員

城口呼舟夕江心生浪時雨侵晴處去雲逐望中移笛響
更如聽棹搖鷗不疑忘機猶泛泛一任晚風吹

合

德永顯忠

薄暮綠江雨忽從推戶懸風帆驚鷺色画裏接津煙

藻塩州

糸江臨汎... 後人... 本北將軍地務 古地

急岩大控況

日有... 社務... 古地

本北將軍地務 古地

急岩大控況... 日有... 社務... 古地... 本北將軍地務 古地

今程存す

雑候場

雑候場の西よりけり... 雑候場の西よりけり... 雑候場の西よりけり...

雑候場

日有... 社務... 古地

真行寺

日向あり... 社務... 古地

肉仲檀

日向あり... 社務... 古地

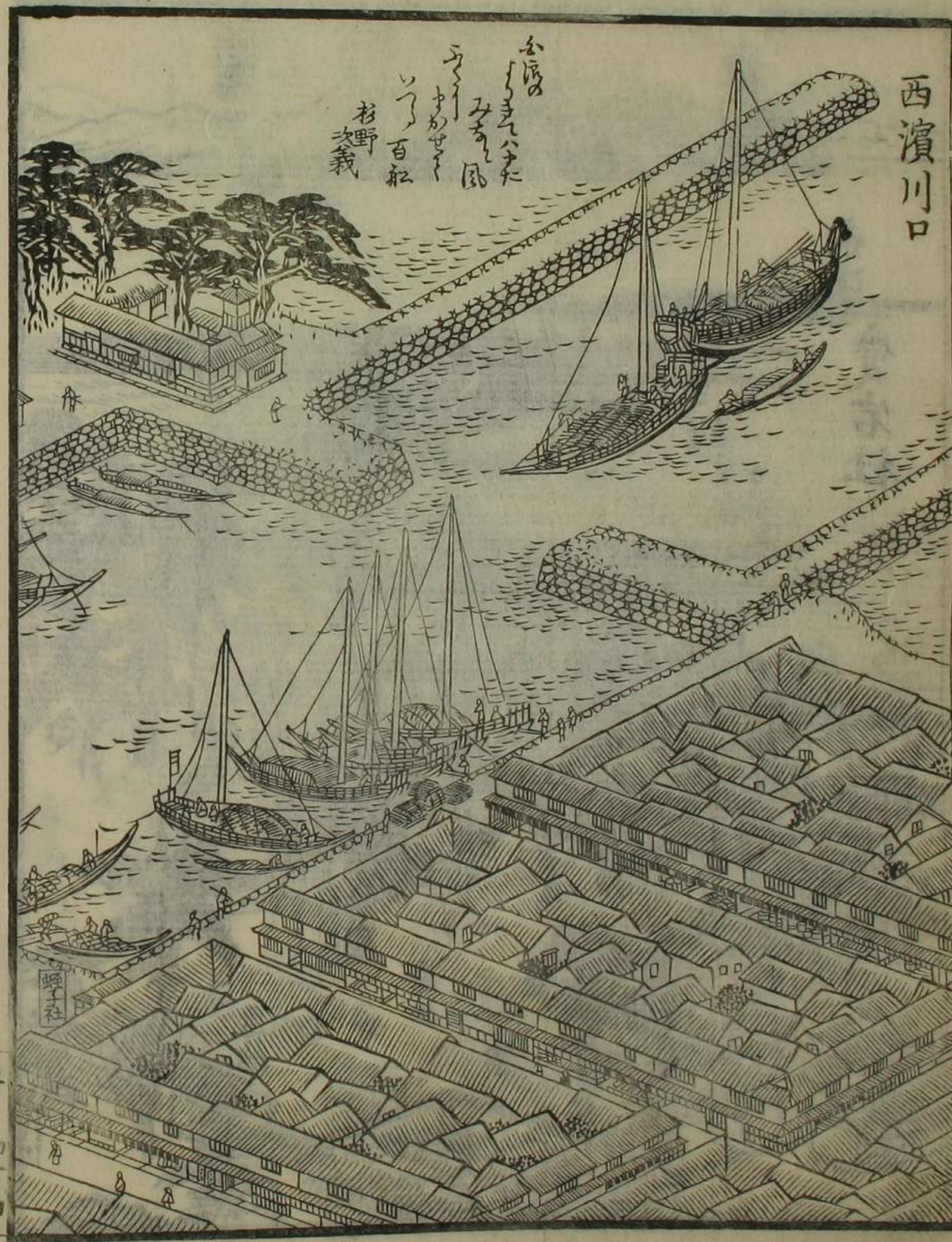
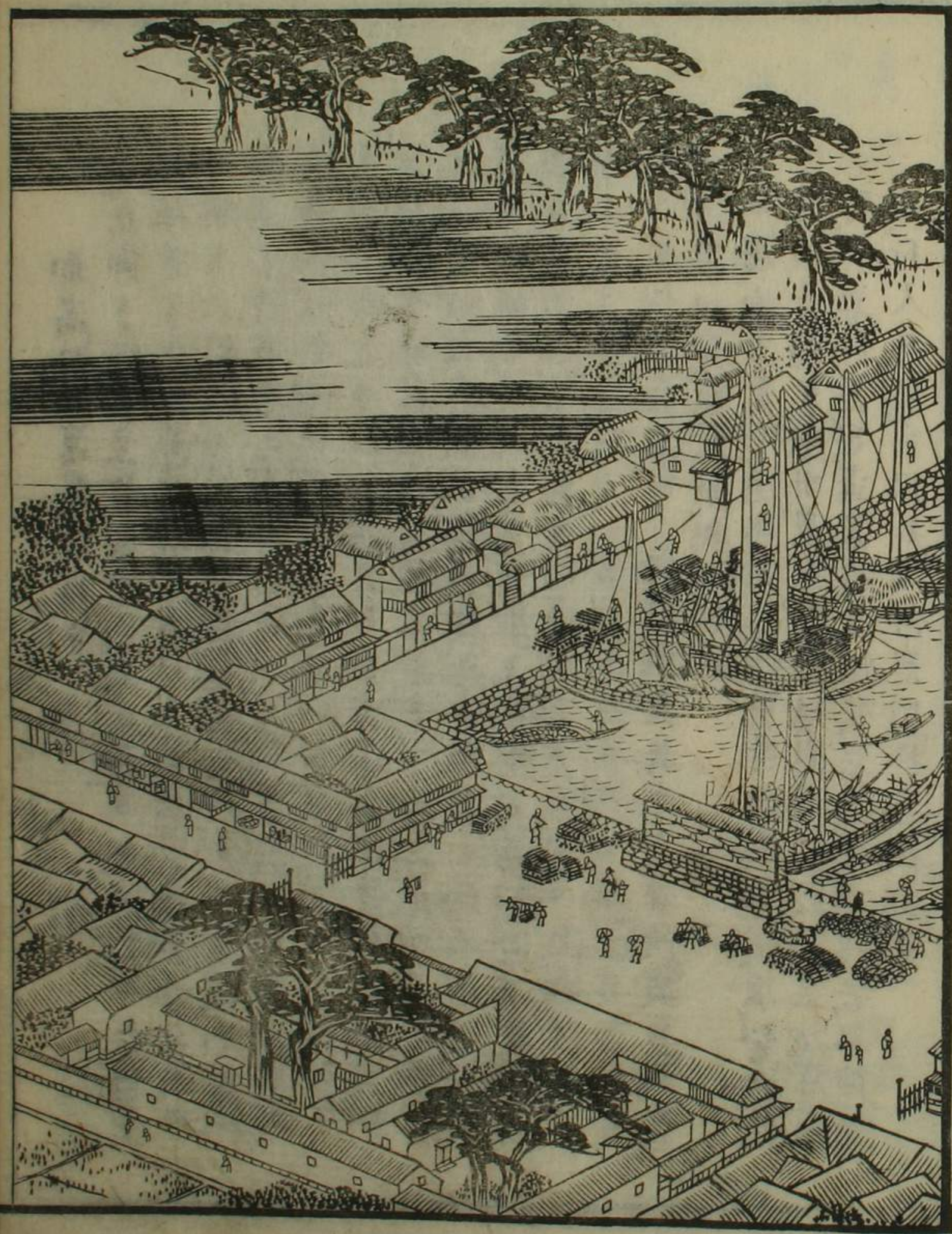
高寺

日向あり... 社務... 古地

撞樓

日向あり... 社務... 古地

代真行寺... 清法橋作銘... 序真行者讚州香東

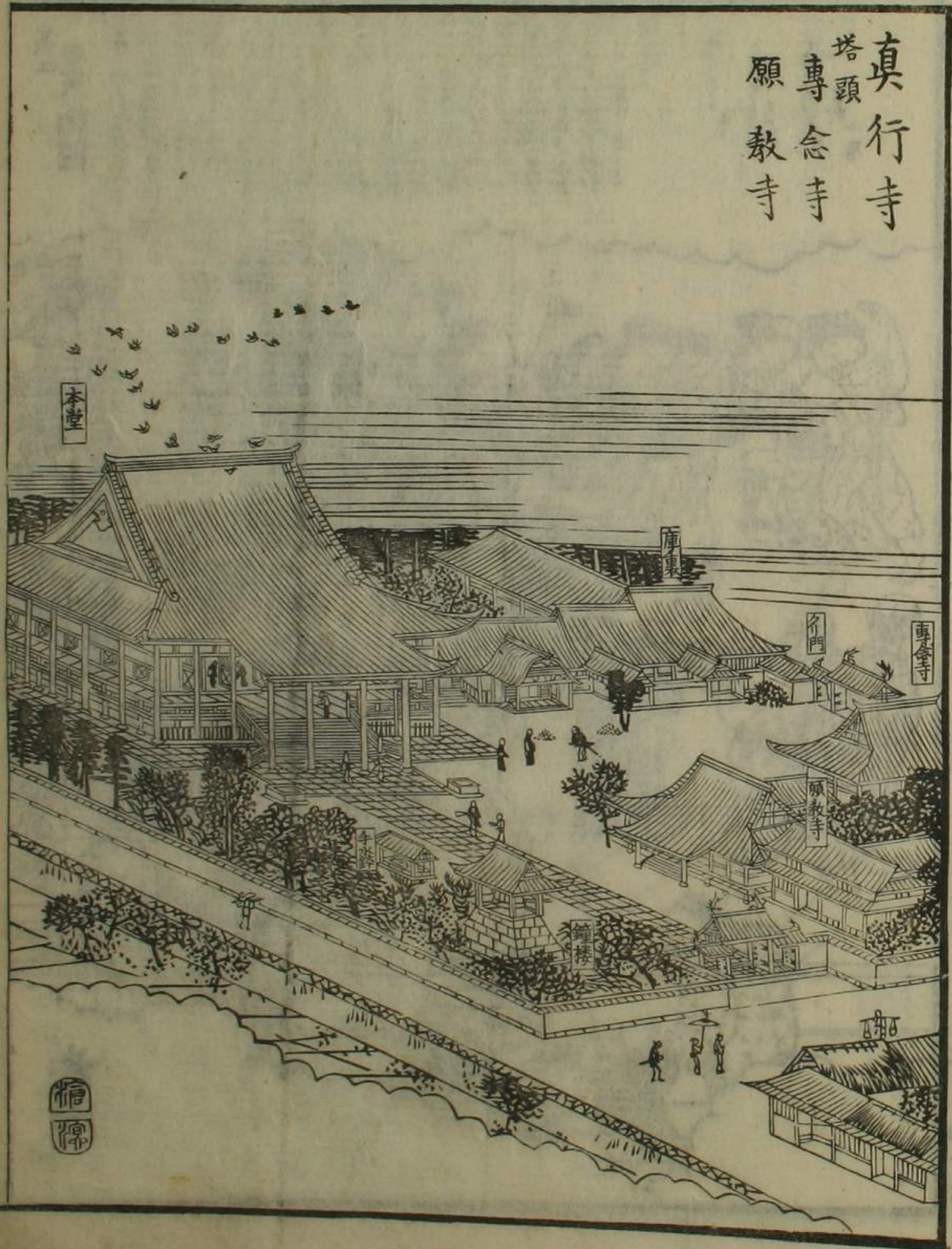


郡高松庄真宗道場也

吾先師了休勤息嘗謂某歲之間某日之夕於午夜倏夢
睹皓叟冥立圓對神清貌儼乃誦余曰叟是白峰天皇也
此判自古閱鐘汝而今範銘而懸之扣撞而驚象則往復
棲屑榮護道場以格純嘏誠聚方法者莫大於鐘汝能懋
哉須臾而夢醒恍兮惚兮聖神如在齋宣昭々言猶在耳
曰得以記之自尔已還了休恒謀營鑄而其願不渝然而
公私多故流光催換荏苒度竟不足以滿其願而風先
火次奄故圓寂矣噫吾也雖無似何荷先師之法嗣而豈
其不勉旃斯時哉自狀其事上疑有司請開許下置擅越
戮力僣功越寬永龍集元声之秋危徒揆日經構煇所于
南山樊下涓祥辰考令且以九月廿八日鳩工差肩火官
疏冶風伯鼓索鎔錘一時便就矣於乎靈感所致莫測神
異乃覈以美詒得欺誣銘曰

西濱泊矣真宗道場鑄鐘離奠神靈孔彰鼓辰警衆梵
放偏長蒲宇噉吼豐隆震盪清徹金界激揚宝坊深者
弥發專修益昌蓬窓破夢悅駕慈航鈞磯轉苦忽陸覺
床行人計路音侶知方佛息罔極冥祐無量

真行寺
塔頭
專念寺
願教寺





西方寺



五ノ四十八

西方寺山より
東方眺望

卷簾吟坐古禪宮
風掃汀雲望不窮
漁艇遙歸斜日外
藻城高聳淡煙中
賀山題



西

五ノ四十九

浦己ノ名
海原を
さきつて
竹葉のそよめ
あは乃
釣舟
藤原
澹海



山

山

山

山

先卒無嗣養叔父可利子為嗣曰道節々々託其所識求
銘君墓因為述世次操行之大略系以銘曰
南讚之山兮維子攸宅德輝貞珉兮形歸窆窆

伊藤長胤撰 京師人 号東涯

奧村君無我墓 在西方寺山下

享保十九年五月十七日奧村君歿年七十六迺斂葬于
城西蘭若君諱重舊字無我以權左衛門行備州岡山人
也曾祖藻相市內事黃門淳田直家倫嘉八濱之戰父子
皆死焉事載在史冊祖父九平次改氏曰奧村仕播廣侯
源利隆後為倫後致為臣去之作州父諱正吉亦仕倫前
侯源光政配堀氏生二子長正繼君其次也容貌偉偉蓬
頭突髻少喜劍聲師事落合阪口吉川鈴木諸子輸力數
十年技成乃客遊旁郡國士人爭師之自以為莫已若者
矣會川崎氏崩子田神無外者自武城來游備中君時在
作及聞之振袂而起而甚而往相擊御杖成風其技不可
敵於是投杖而拜遂請為之弟子從之蓋有年矣自閑以
西足跡莫不至矣及將去出書五編曰異日讀此必有得

焉既而果然此數劍士皆其術肇自常州筑波山東軍寺
僧因号曰東軍之流從君學劍者森拾遺長成族闕式部
衆利赤城侯淺野長矩大夫大石良雄及大石信清潮田
高教其餘諸州豪士五百餘人君又嘗學槍術於佐分利
土成脫又於仲野權平亦皆盡其術矣元祿庚辰來於讚
仕節公晚免家居焉娶楠氏生重清重宿初余從君學
劍及脫又故臨絕遺言命余以銘々々曰

于嗟骨兮將速朽

友人

勒茲石兮垂悠久

菊池武賢撰 本藩儒員 号黄山

○大石良雄學劍於奧村氏其墓在寺厨是性寺

起情文前書之事

- 一 東軍流之兵法務御在傳上無先已矣御他見他を中る事
 - 一 免以後文化流制一院之中らる事
 - 一 免以後免後之紙を力に中る事
- 右之條に於て骨云

梵天帝教曰大天王伊豆稻根三嶋大明神八幡大菩薩
天德大自在天神摩利支天等其本日本國中大小神祇
亦對之為者也仍記述文以傳

元禄六年甲申

六月廿日

大石門齋助

七



奥村控左衛門殿

銅 印

己酉 首丸

己酉 首丸

鈕



五ノ五十二

是家所藏之銅印也古名養勝定其年以外之物但
未嘗已酉首丸者果為何人也偶覽三代實錄曰
陽成天皇元亨二年六月廿三日壬子住勢國為舍弟大
神字氏人神之姓是亦因三字大神字氏人有二神之姓
是亦因神之根本神之屋舍神之是也自是大神是
亦因神之首麻呂之後統漏屋本因二字今首麻呂
裔孫而官披所故因四加之之因按己酉住勢也九云
麻呂姓則此蓋為伊勢大姓是亦因神之首麻呂之印
矣其由神己酉首丸與新細流屋本因亦如契又按
國史 天武天皇十三年丁卯進大野舟歷
持統天皇五年 天武天皇大正元年三月至己酉之
人亦蓋在之也唯是神也傍陋之教自是且持
之也統以侯持神 王子之卷載云

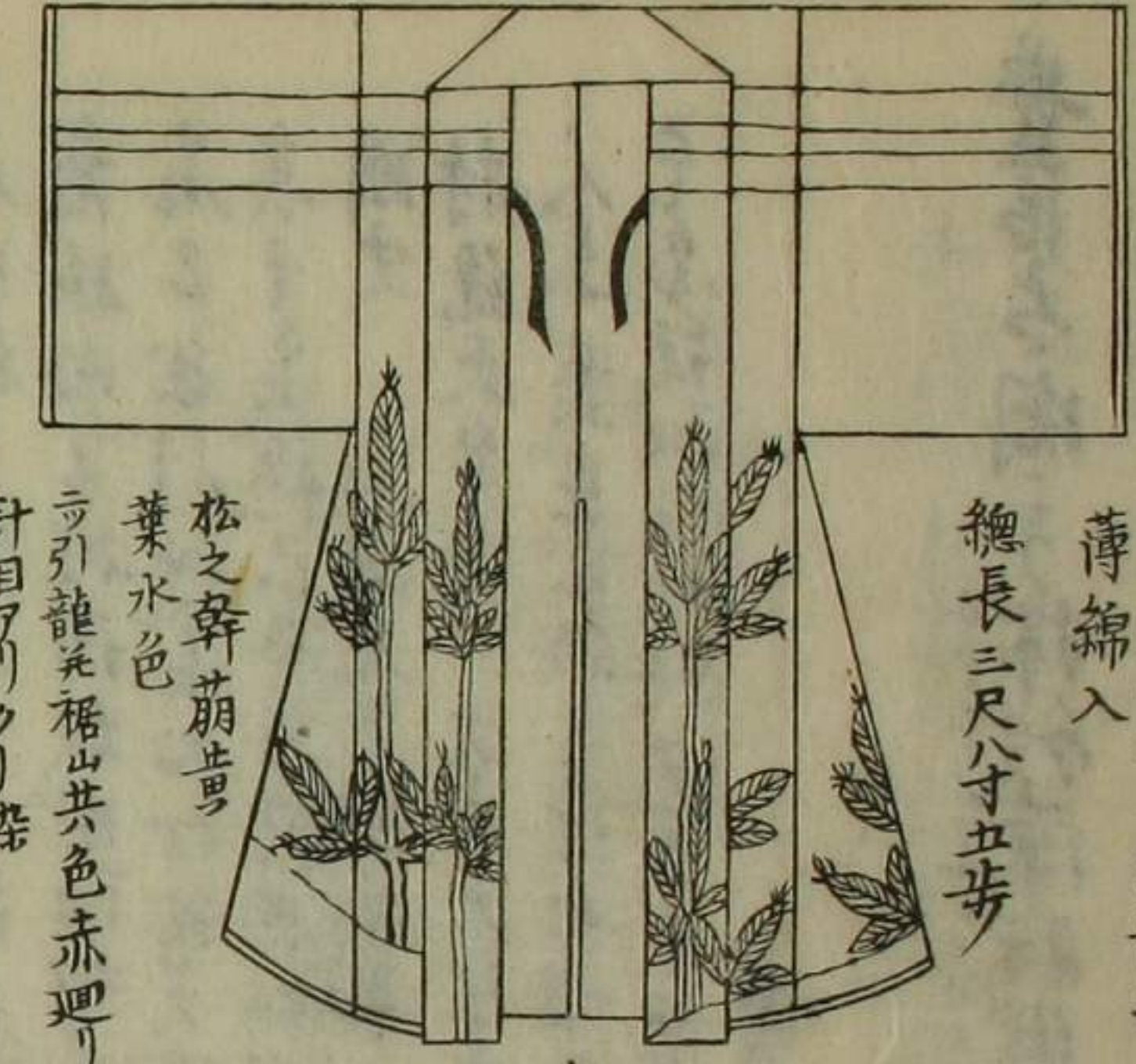
續攷

檜原寺并神傳

豐后大國 拜領陣羽織緒号

本廣正 今村一後藏

表
總長行尺

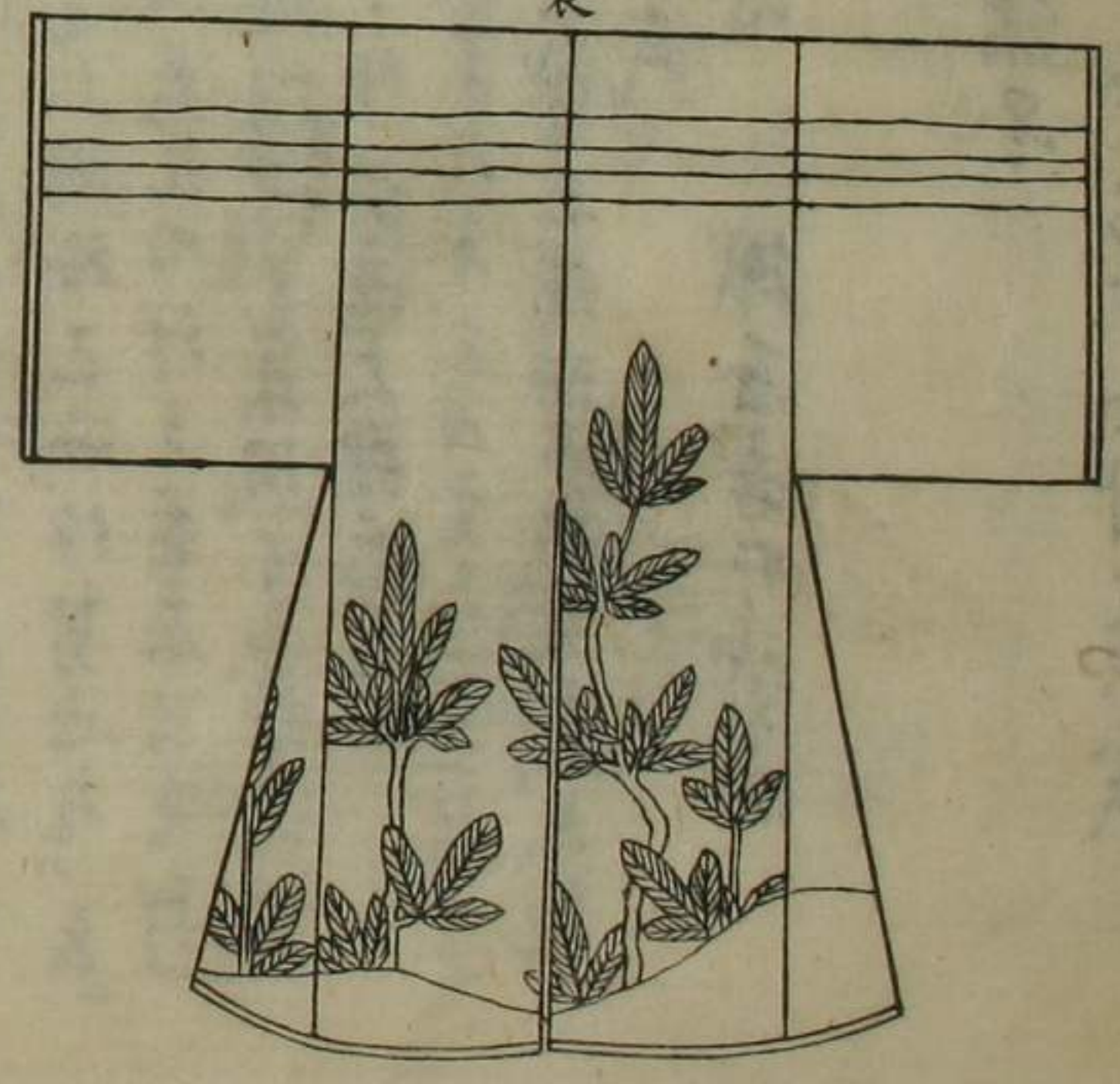


袖長一尺五寸二步

表白練裏紅龍紋
薄綿入

總長三尺寸五步

裏



松之幹 萌草
葉水色
引龍尾裾山共色赤廻りニ
針目アリクリ澁

大和国添下郡
唐招提寺古瓦硯
洞とてまきめ整
堅 六寸五步
横 上三寸八ア
下四寸一ア
十種殿
正三位有功
あつた尾も
いのちうさう
重布目
如圖

今村一後の先能おちたう一西の冬を修むる等の筆下右田大橋よりまき路に仕つて
まき路より西の路におち田中村におちあつたまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つて
けしきふち通つておちたうらまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つて
御の下の御殿に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つて
仕つてまき路に仕つて

同くまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つて
けしきふち通つてまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つてまき路に仕つて

大和国添下郡

唐招提寺古瓦硯

洞とてまきめ整

堅 六寸五步

横 上三寸八ア
下四寸一ア

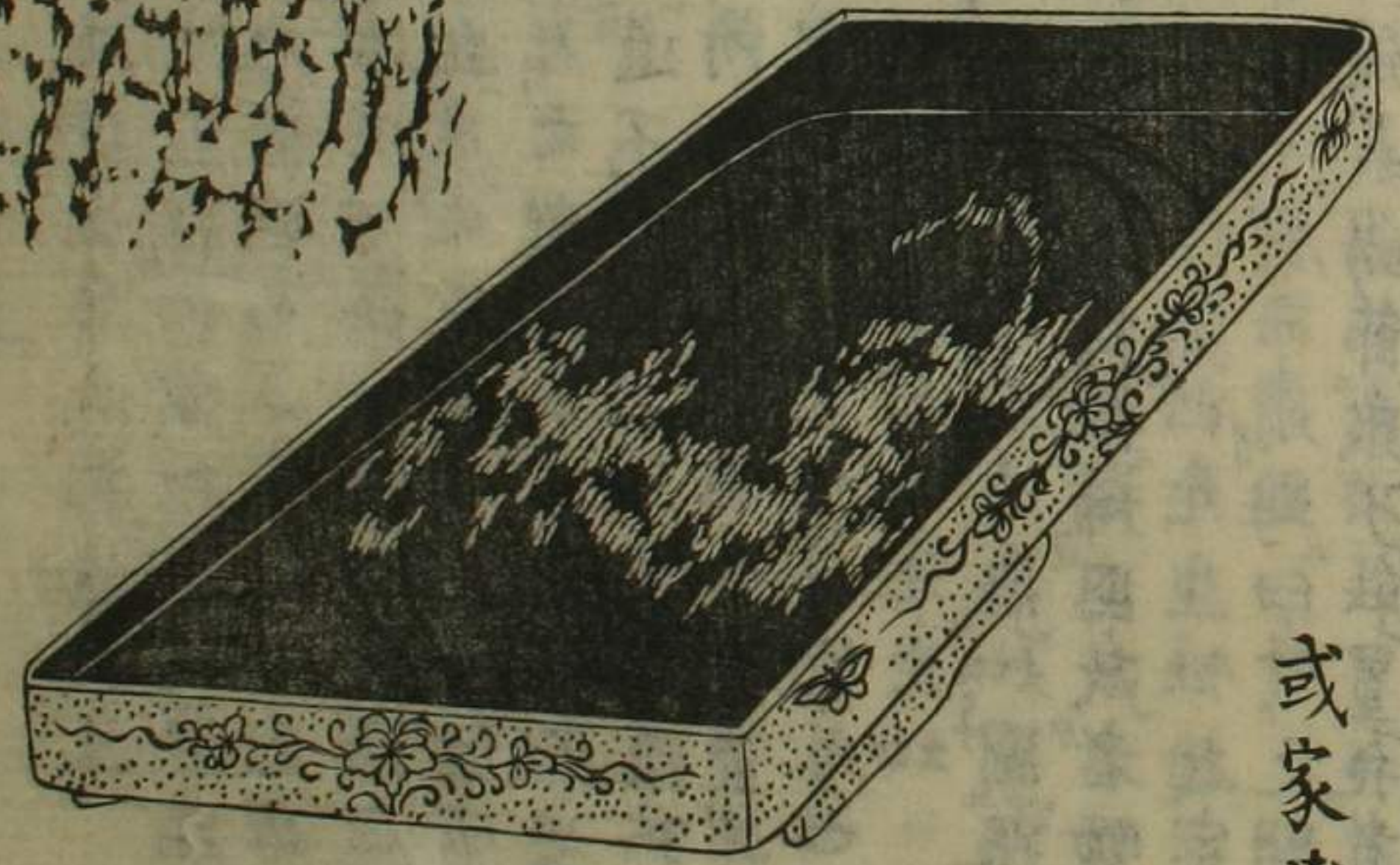
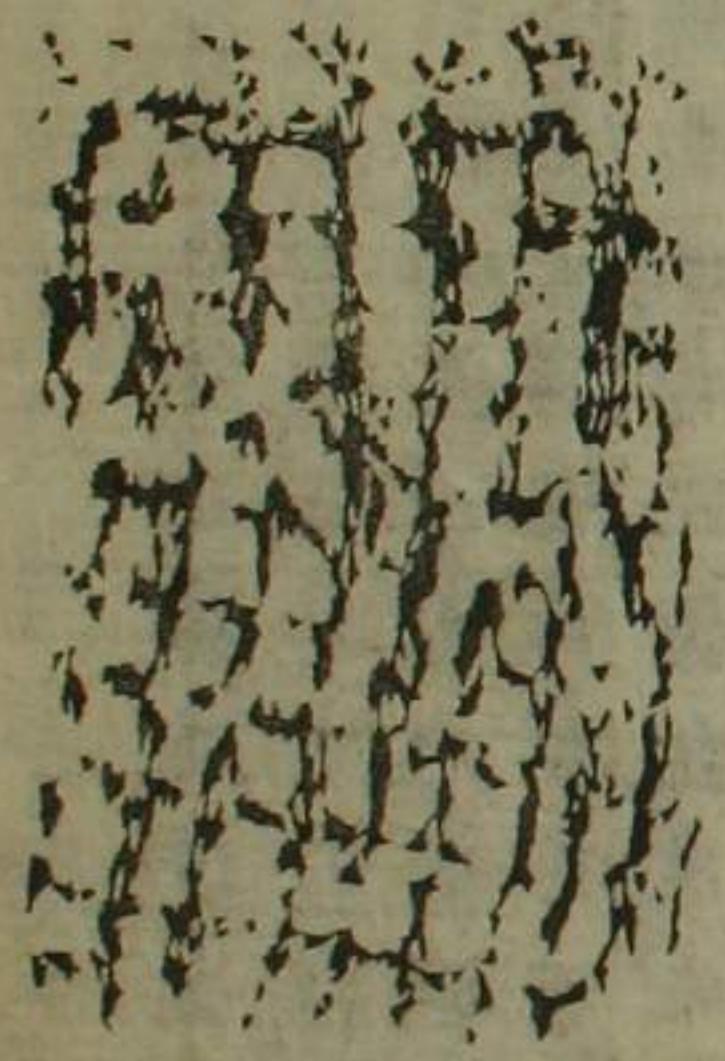
十種殿

正三位有功

あつた尾も

いのちうさう

重布目
如圖



或家藏

讚岐故儒學士之山先生後孫守中之墓

在西方之山下

是為後孫芝山先生之墓於乎先生上則為其君 穆公
 定公 今公三世所春禮外則為宗戚列侯水戶熊本諸
 公所賞受下則碩生頌儒所畏敬而小子後生之悅慕者
 其道何以哉先生學有源委行有終始博而能約正而不
 迂驚機如神而出之以謙和成之以忠愛進止詳雅應對
 明敏風度遠邁超然有逸凡之望是以不以面折廷爭而
 從容燮侍之閒善引君當道不以莊色厉聲而遊於戲謔
 之餘輒誘人入德夫先生所以得上下內外者豈其無其
 所以哉先生諱世鈞字守中芝山竹同俱其別号也祿
 兵衛祖諱友房考諱友貞世讚岐國人也先生幼穆公
 聞其隸悟資金就學終收以為用先生亦感知圖報鞠躬
 竭力終始不怠其終裁記錄所纂錄裨補國政者頗多講
 道誼之建規畫學政皆先生所州定也先生性縝密精細
 而接物慈良喜稱人美家範不嚴而肅雖印升之間皆秩
 然有法度讀書妙解每遇疑義錯節衆不能置者先生
 出數語則一塵為之解頤文詩敏捷雋潔觸類肖物時出

新奇以驚入接待韓使僚屬者延享室曆凡再服其才鋒
 所著五經標注元明史略和漢年鑑晚研一天朝典故撰
 職原抄考證官詩百首皆行于世文集著于卷邦彥典其
 嗣師周爭編次既成秩將授梓書法好媚成一家葆家扁
 題多其筆蹟也又喜音律善琴箏及筆樂先生十有八而
 入東都國學遊林正懿先生之門三十有三而事于讚岐
 六十而致事又二年以病歿矣天明二年四月三日也葬
 于高松城西万日原其世系履歷之詳邦彥既誌而埋之
 今又摘其略以表之田安府府僚大塚子裕以其旧好遺
 以詩曰

荷嗟淑人生被南國夙遊國學々竭其力予邂逅有所
 矜或粹然其言温然其色今而思之淚沾胸臆滄海之
 濱紫峰之側葬從先堂千焠以息有子有孫天酬令德

田安府少傳大塚孝緯銘

阿波國儒員榮邦彥序

讚岐門人藤荀簡謹書

孝子 師信立

天明七年十月

正二位權中納言藤原資矩諱題

日野推大納言資愛卿御筆

漆谷詩翁之墓 在西方寺上

吾友漆谷翁歿其子弘基寄書及行狀請文其墓余與翁相知殆將五紀無復可辭之理乃序而銘之翁姓後藤諱苟簡字田夫其別墅地名漆谷因自為号其先出自鎮守府將軍利仁公奕世武弁各有戰鬪家乘具在歷々可徵天正中高祖某始歸農於備後由木邨曾祖某徙家於讚岐高松府祖諱正茂考諱保果子姓若干伯兄知義弟家無子翁以季身繼後孝友兼敦家門穆々自幼好學師事雞林芝山二先生讀書習字年二十餘夙為府中人物稱首余童州時既欽翁名後竟忝忘年之交翁為人温厚和易能使人景慕不措家多貯元明墨蹟錦囊玉軸所室以百數其他奇玩傲具靡所不有前歲所交者鹿庭藍渠竹石鹿溪暢舟諸人皆以風流互相標榜詩文書畫招邀殆無虛日風尚所及倍習一變自士大夫以下至緇流閨秀皆知以華視為娛樂而翁名日噪四方文士之到讚者必以翁為東主屢遊京場間與措紳名流相接最受知於栗

山先生々々游揚翁美不惜齒牙於是翁書無脚而走於千里翁作字端嚴詩亦流暢皆如其人耳順之後一切以家事付弘基別就宅後脩老松園以居藝樹疊石邃然成趣訪詣者益多置酒對奕人盡其歡優遊以卒歲焉晚奉公命太書飲中八仙歌筆力不減少壯之時公特賜賚以褒賞之通國無不艷稱翁以天保二年五月二十二日歿享年八十有三配秦氏二男五女長即弘基令幹其家次德輔先亡女皆適人翁以是歲春沒舟赴備中某家雅集筆床茶竈陳列而頭翁策談於其間人望以為神仙歸後得病竟至不起病革戒家人曰我年過八十死其分也毋敢以湯藥來迫沈綿之際使侍者唯誦聖經不許唱佛名嗟此一事可以見翁之風流至老不衰翁之心術臨終不撓矣余也半生離御故旧晨星哭至斯人五內欲裂起而作此者不獨成孝子之志亦將全執友之義也銘曰

翰墨擅場 一世仰止 利祿不關 天爵可擬
何況達尊 兼德與齒 展如斯人 維邦之美
正二位藤原資愛卿墓表

友人 讚岐地桐孫撰文 本藩儒員 号五山

常陸 大窪行書 孝子弘基立

梅丘春樵翁楷書

監渠握原翁之墓

在墓口左

學士之大業莫大於著書。著書之木要莫要於著有用之書也。愛汎讀一時名家之著書。大底經生議經藝生論藝。生所耽者文。經生所泥者理。理用有幾何。文用有幾何。是皆費無用之議論。摹擬異邦海外之著述而已。其為本朝有用之著書。哉。苟著有用之書者。莫過于藍渠一叟也。叟諱景博。字復初。握原。其族藍渠。其号讚人也。自幼好學。善詩。與書。画。又号三痴。學人中年一疾。憤以謂從事詩。與書。画。以終其身。究與草木虫魚同腐。兵不若修國史。典故之學。以謀不朽于有用之一著也。於是棄詞采。約爛之學。務博聞強識之學。所讀則國史。所論則典故。紙之筆之墨之。朱之三十年間。無慮日遂草。帝王編年之一國史。釋錄。朝廷古典之不傳于世者。若夫歷代之事蹟上。

無確錄下多異說。苟要編輯之。須要閱群書而按之。要閱群書而按之。須要借搢紳韞櫝之祕書。叟僻在海陬。何從借讀之。前此屢遊輦轂之下。懇于此請于彼。騰寫蠹蝕之餘言。乃來而見愛。亦唯有所諮詢乎此。攀也。愛嘗讀其所筆之二三局。起筆于元弘帝紀。其定南北之正偏。一据水史而至。攀典故。則多漏于水史者。且夫世之編史。至古言古。辭之不雅。別往々筆削。而文之動失。痕跡是雖。水史猶有所未免。叟之所筆。完存其真面目。以便于有用也。草成得二百又五十局。叟又四謂年。才幸小在此。一。而自顧布衣。僭議歷代之帝王罪莫大焉。縱令所筆之有用于世。而為布衣之手筆。則人皆賤其書。不若削除賤名。以貴此書也。幸值藩府修國史之攀。遂攀其草。獻之以備其取捨焉。藩府善其志。願賜月俸若干。命令人國史。按離之列。尋而罹疾。亦復賜白金拾又五枚。叟生室曆壬午十一月。望年七十三。天保甲午四月朔死。第四子景紹為嗣。請碑銘于愛。因憶叟之在京。每招而相話。及國典終夕。不憊為人。醞藉謙和。今猶如在。目即將作之銘。以謂凡人。之藝事家之系譜錄。以榮之。為銘墓之常如此等之人。則

不可拘拘乎此等之事愛何為以常言慰藍渠于地下乎
 梶原之名旗于讚者一藩上下之所知又何復愛之贅言
 乎只此草創編輯起于壯年之一憤成于衰老垂斃之手
 實可謂大業哉聞讚藩之修國史設館聚儒潤飾討論而
 后經大總裁獻之于朝廷然則一部讚史猶水府之有
 水史而豐之嘗所苦心亦應略載在冊始為國家有用之
 書也豈同草木之腐乎愛為便銘之要令後來讀讚史者
 有懷旧于此墓想像於無窮亦是愛之婆心而已銘曰

厥身垂斃 厥書等身 一燈一筆
 費百苦辛 獻草報國 詳揭梅臣
 通典故者 有用之人

天保丁酉夏五

无礙菴

前推大納言正二位藤原資愛撰
 從四位下祝部希聲謹書

讚岐國名勝圖會卷之五 終

真景松岡信正畧

讚岐國名勝圖會前編 五冊

大内寒川三木山田香川上五郡

同 同
 後編 七冊

香川東阿野北鷓足那珂四郡

同 同
 續編 三冊

多度三野豊田三郡

香川縣南河津藩人形御覽

卷之三

三冊

11

同

香川縣南河津藩人形御覽

卷之二

同

大内東川三木山田香川魁立

燈籠圖多湖圖會前編 五冊

貞享三年林間前編

11

